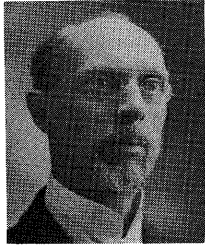
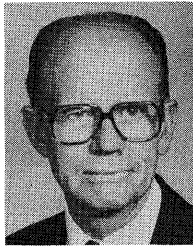


聖徒の道

1982年10月20日発行（毎月1回20日発行）第26巻第10号  
昭和42年12月18日第3種郵便物認可

# 聖徒の道 10 1982





末日聖徒イエス・キリスト教会

大管長会

スベンサー・W・キンボール  
N・エルドン・タナー  
マリオン・G・ロムニー  
ゴードン・B・ヒンクレー

十二使徒評議委員会

エズラ・タフト・ベンソン  
マーク・E・ピーターセン  
リグランド・リチャーズ  
ハワード・W・ハンター  
トーマス・S・モンソン  
ボイド・K・バックナー  
マービン・J・アシュトン  
ブルース・R・マッコンキー  
L・トム・ベリ  
デビッド・B・ヘイト  
ジェームズ・E・ファウスト  
ニール・A・マックスウェル

顧問

M・ラッセル・バラード  
ローレン・C・ダン  
レックス・D・ビネガー  
チャールズ・A・ディディエ  
ジョージ・P・リー  
F・エンツィオ・ブッシュ

編集長

M・ラッセル・バラード

国際機関誌

編集主幹：  
ラリー・A・ヒラー  
編集副主幹：  
デビッド・ミッチェル  
子供の頁編集：  
ボニー・ソーンダース  
デザイナー：  
ロジャー・ギリング  
制作：  
ノーマン・ブライス

も く じ

恐れることはない……………ゴードン・B・ヒンクレー……………1  
 ポールのかぼちゃ……………W・ポール・ハイド……………6  
 夏のない年……………ピーター・K・ベルビル……………8  
 チョコレートケーキ……………エスター・ムーア・ブラウン……………10  
 ゴードン・B・ヒンクレー副管長  
 霊的な視点から描く ……ニール・A・マックスウェル……………12  
 その高潔な人格  
 質疑応答……………エリス・T・ラスムッセン……………19  
 自分の一に関して……………グレン・レイタム……………22  
 思う4つの事柄  
 タビ・エスカ……………リア・マホニー……………25  
 より速く、より高く、より強く…ロバート・L・バックマン……………28  
 マリアとサフランの花……………マリリン・ナイトウ……………38  
 クロスワード・パズル……………鈴木則子……………42  
 イエス様はみなさんを  
 とても愛しておられます……………ジョリーン・メレディス……………43  
 ジョージ・アルバート・スミス……………48  
 ローカルページ……………50

1982年10月号 聖徒の道 第26巻第10号

発行所 末日聖徒イエス・キリスト教会  
 東京都港区南麻布5-10-30  
 電話 03-440-2351

制作・配送 東京ディストリビューション・センター  
 東京都世田谷区上用賀4-9-19  
 電話 03-427-4311

印刷所 株式会社 精興社  
 定 価 年間予約／海外子約2,200円(送料共)  
 半年子約1,100円(送料共)  
 1部180円、大会号350円

International Magazine PBMA 0471JA Printed in Tokyo, Japan.  
 © 1982 by the Corporation of the President of the Church of Jesus  
 Christ of Latter-day Saints. All rights reserved.

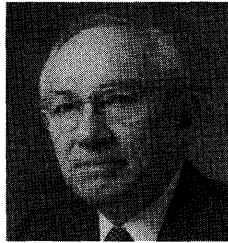
定期購読は、「聖徒の道用予約申し込み用紙」でお申し込みになるか、  
 または現金書留か振替（口座名／末日聖徒イエス・キリスト教会・  
 東京ディストリビューション・センター 振替口座番号／東京0-  
 41512)にてご送金いただければ、直接郵送致します。注：お届け先  
 の変更がありましたら、早急にTDCにご連絡下さい。



# 恐れることはない

副管長

ゴードン・B・ヒンクレー



**最**近のことですが、私は仕事を終え、家でテレビのニュース番組を見ていました。どのニュースも争い、悲しい出来事、圧制などを伝えるものばかりでした。

私はテレビのスイッチを切り、居間のピアノの所に置いてあった讃美歌を手にとって、昔パーレー・P・ブラットが書いた素晴らしい歌詞を読みました。これは私が感じているのとまったく同じ気持ちを歌いあげています。

「来ませ王の王 待ちに待てり  
かばいて自由 人に与う  
イスラエルの民 いま集めたまえ

地は火により きよめたまえ  
正義をもて 世を治むる  
御代を喜びて 聖徒らうたわん」

(讃美歌28番)

私が心から確信していることのひとつに、主の再臨があります。教会本部ビルのロビーの東側の壁に、復活した主が11人の弟子たちに最後の指示を与えている時の様子を描いた、美しい感動的な絵が飾ってあります。主はこの時使徒たちに「あらゆる国民、部族、国語、民族」に福音を宣べ伝えるという、彼らの前途に横たわる責任について教えられました。

「こう言い終ると、イエスは彼らの見ている前で天に上げられ、雲に迎えられて、その姿が見えなくなった。

イエスの上って行かれる時、彼らが天を見つめていると、見よ、白い衣を着たふたりの人が、彼らのそばに立っていて

言った、『ガリラヤの人たちよ、なぜ天を仰いで立っているのか。あなたがたを離れて天に上げられたこのイエスは、天に上って行かれるのをあなたがたが見たのと同じ

## ● 恐れることはない



有様で、またおいでになるであろう。」(使徒1:9-11)

私はまた、主は再臨の時には、時の絶頂にこの世に來られた時とは違って、栄光の内においでになると確信しています。大いなるエホバ、地球の創造主、いにしへの予言者に語られた神は、初めユダヤのベツレヘムの飼葉おけに、ひとりの赤子として身を落として來られました。主はほこりにまみれたパレスチナの道を歩まれました。そして、まさしく「悲しみの人で、病を知って」おられたのです。(イザヤ53:3) 主は邪悪な人々の手に我が身を委ね、ゴルゴタの丘の上で十字架につけられました。

さて、主はこの神権時代に次のように宣言されました。

「われ能力と大いなる栄光とをもて雲に乗り來るべき時まさに近づけり。

而してわれ來るべき時は、すなわち大いなる日なり。すべての国民はこの時恐れおののけばなり。

されどその大いなる日の來る前、日は暗くなり、月は血と變り、星は光を出さず、また空より落つる星もあらん。而して大いなる滅亡は悪しき人々を待つ。」(教義と聖約34:7-9)

この聖句の「すべての国民はこの時恐れおののけばなり」という部分には、特に私の心に強く訴えるものがあります。傲慢な人々、強大な軍事力に驕りたかぶる国々の指導者は、自らの前に敵する者はなしと考えていますが、彼らは歴史の教訓を十分にくみ取っていないのです。

40年以上前になりますが、私はイギリス



再臨の日について述べられているほど  
恐ろしい出来事があつた日は、  
地球の歴史のどこを見ても  
ないと思います。



で伝道しました。いわゆる大英帝国の時代で、イギリスは太陽の没しない国と言われ、ユニオン・ジャックの旗を世界の至る所にはためかせていました。当時の世界の平和とは、バクス・ブリタニカという言葉に示されたように、イギリスが他の国々に強制した平和を言いました。しかし、今やイギリスにはその面影もありません。多くの植民地は独立し、ほえたける獅子に象徴された大英帝国は、老いさらばえ、病み衰えてしまっています。

私にとって、神の御子が再び地上に來れる時に、諸国の民が恐れおののくであろうことは、そう信じ難いことではありません。その時のことについて聖典に次のように記されています。「人の子が栄光の中にすべての御使たちを従えて來るとき、彼はその栄光の座につくであろう。

そして、すべての国民をその前に集めて、羊飼が羊とやぎとを分けるように、彼らをより分け」る。(マタイ25:31-32)

何年か前、ある教会幹部が什分の一の納入を「火災保険」のようなものと言って、私たちを笑わせたことがあります。主のみ言葉は明確です。神の戒め、律法に聞き従



わない人は再臨の時、焼き尽くされてしまうでしょう。その日は裁きの日、善人と悪人をふるい分ける日だからです。私の考えでは、再臨の日について述べられているほど恐ろしい出来事があった日は、地球の歴史のどこを見てもないと思います。その日は自然が前代未聞の猛威をふるい、地上の諸国と悪しき人々にとってはかつてない凶事の日、義人には至福の日となることでしょう。

大いなる恐怖が地に満ち、天変地異があり、人々は泣き悲しみ、たとえ悔い改めを口にしても受け入れられることはなく、主に憐れみを求めて叫ぶ日となるでしょう。しかしその日は、主がみ使いや、エルサレムで共に時を過ごされた使徒たち、復活した人々と共に来られるのです。主のみこころになつた行ないをしてきた人々には感謝の日となることでしょう。また、義人たちが開かれた墓から出て来る時でもあります。そして、サタンが縛られ、主が御自分の民を統治される1千年、すなわち福千年が幕を開けるのです。皆さんは邪悪な敵の力が封じられるこの素晴らしい時代を想像することができますか。今皆さんを取り囲むサタンの力と、それが消え失せる時の平和な状態を考えてみて下さい。今地には争いと罪悪がありますが、やがて平和と愛の時が訪れるのです。

皆さんは今私が話してきたすべてのこと、また聖典に記されている事柄についても、もっと多くのことを御存じだろうと思います。ただ、これらの将来の出来事に対する信仰と確信を新たにす意味で繰り返させていただきました。

これらの出来事がいつ起こるかを理解するには、多くの自己訓練が必要です。またこの自己訓練は福音の原則に従った生活をする上でも不可欠のものです。

私たちの多くはこれらの出来事についていつも考えているわけではありません。確かに、それがいつ起こるか正確な時を知る方法はないのですから、それはそれで良いと思います。それよりも、生きて主の再臨を迎えた時に、瞬く間に身を変えられ、朽ちる体から不死不滅の状態になれるよう、毎日の生活を送ることの方が大切ではないでしょうか。

また、再臨の前にこの世を去らなければならぬとしても、生前主の教えに従っていれば、復活の朝によみがえり、素晴らしい経験をすることができます。それは約束の福千年の間に救い主と共に暮らし、働く人々のために備えられたものです。私たちは主の再臨の日を恐れる必要はありません。教会が設立された目的は、神の王国の会員が、地上に天の王国が築かれる時に、その住人となれるよう励まし、機会を与えることにあります。次に、もし皆さんが実際に行なうなら役に立つと思われる事柄を2、3話したいと思います。

予言者ミカは「人よ、彼はさきによい事のなんであるかをあなたに告げられた。主のあなたに求められることは、ただ公義をおこない、いつくしみを愛し、へりくだってあなたの神と共に歩むことではないか」と宣言しています。(ミカ6:8)これは実に含蓄のある言葉です。ここでは「いつくしみを愛する」という点に絞って話を進め

## ● 恐れることはない



ていきたいと思います。例として、私がひとりの若い女性から受け取った手紙を少々引用したいと思います。彼女は扶助協会の会長としてこの愛の活動に携わっています。

「きのうは福祉援助を必要とする人のための食料品選びと、その配達でほとんど1日を過ごしました。ふたりの人を訪問しましたが、その内のひとりとはとてもかわいそうな人です。彼女は何年も前に火事で頭にひどいけがをしました。何度も何度も手術を受け、いまだに頭の皮を縫い合わせている状態です。夫の方から話があって離婚となり、4歳の娘さんとの生活を支え、また手術を完全に終え、栄養士になるための学校に復学するまではと、どんな安い賃金でも、とにかく仕事があればそれをして頑張っています。自動車は持っていません。この広いにぎやかな街を自転車だけで走り回っています。後ろに小さな子供を乗せて、冬の間もずっと自転車でした。小さな仕事を求め、あちらこちらと1日中、50キロ近くを自転車で走ったこともあるそうです。

1週間前、自転車に乗っていて凍った地面の所でスリップし、頭を強く打って脳しんとうを起こしてしまいました。それでも医者には払うお金がないと言って、病院に行こうとしないのです。妹という人が気がついて、病院に連れて行くまでは、苦しみが、ずっとアパートにいたままでした。彼女のお母さんもあまり豊かでなく、ほとんど助けられない助けをすることができません。たまたまホームティーチャーが訪問し、彼女の状態を知りました。私も扶助協会の会長として彼女のアパートを訪ねてみました

が、薬、お金はもちろん、ひと切れのパンもない有様でした。それできのう、食料品と薬を届けたわけです。こういう苦しい生活をしている人たちのために、もっと役に立ちたいと思います。」

いつくしみを愛し、主の戒めに従って自分の財物をこの王国のために捧げて下さい。ここでもうひとり、子供の頃は貧しい生活をしていたのですが、長じて裕福になったひとりの人の証に関してお話ししたいと思います。その人は聴衆の前に立ち、こう証しました。

「子供の頃、夏になると私は柔らかな木の枝を口にくわえながら草の上に寝ころんで、両親が言っていた天の窓は一体どこにあるのかと、空を眺めていたことがよくあります。雲の中には見えず、きっと青空の中のどこかにあるに違いないと思いました。また、どうしたら天の窓が開かれ、ボーイスカウトの制服や小馬、自転車を手に入れることができるのだろうかと考えたこともあります。そういう物はついに手にすることができませんでしたが、自分と同じワード部の善良で物惜しみをしない会員たちが示して下さる親切の中に、天の窓が開かれるということの本当の意味を見いだすようになりました。」

最後に、この一般的なテーマに関して、あと幾つか啓示の言葉を読みたいと思います。「絶えず徳を以て汝の想を飾るべし」という戒めに対して、「然る時は、汝の自ら信ずること神の前に強くなりて」という約束の言葉があります。(教義と聖約 121:45) 私はこの聖句について、今まで随



もうひとつ  
頭に浮かんでくるのは、  
いつか神のみ前に  
憶せず立てたとしたら、  
これに勝る喜びは  
ないだろうということです。



分考えてきました。私はこれまで合衆国の大統領を初め世界各国の数多くの指導者、統治者、政治家に会う特権に恵まれてきましたが、このような人々の前に憶せず立つことができるというのは、自分に対する自信をつけさせてくれるものです。そのことを思う時、もうひとつ頭に浮かんでくるのは、いつか神のみ前に憶せず立てたとしたら、これに勝る喜びはないだろうということです。

主はこのように続けておられます。「聖霊は常に汝の伴侶となり、汝の**労**は真理と正義の変ることなき**労**となり、汝の支配は永遠の支配となりて強いらるることなく永遠に汝に流れ込まん。」(教義と聖約121:46)これには、義人と悪人をふり分けるために主が来られるあの大きな日のことが付随的な要素として含まれてくると思います。

兄弟姉妹の皆さん、私は啓示された主のみ言葉を信じつつ、これらの事柄を証したいと思います。また私たち一人一人が、再臨の大きな恐るべき日を恐れたり、心配

したりする必要のない生活を、今この地上において送ることができるよう、心から祈るものです。

私たちが真理、平和、道徳的な強さを求めるなら、神は祝福を注いで下さいます。いつということとはわかりませんが、朝日が間違いなく昇るように、主は必ず来られます。へりくだり、イエス・キリストのみ名によって祈るものです。アーメン。



### ホームティーチャーへの提案

1. 福音の原則に対する従順さという点について、自分の経験を話す。担当家族の人々に毎日の生活の中で特に従順さが求められるのはどのような点かを話してもらおう。
2. このメッセージの中に、声に出して読んだり話し合ったりするのによい聖句はないだろうか。ほかに適切な聖句はないだろうか。
3. 家族が「いつくしみを愛し」、神と共に「へりくだって歩む」にはどうしたらよいか話し合う。
4. ヒングレー副管長は、神の前に憶することなく立つための助けとなる戒めとして、どのようなことを挙げているか。この戒めを生活の中によりよく取り入れるための方法について話し合う。
5. 訪問する前に、事前に家長と打ち合わせをしておくことよい。

# ポールのかぼちゃ

W・ポール・ハイド





**19**80年9月、私たちは長い祈りと計画の後に、新しいステーキ部センターの建築プログラムをステーキ部会員に発表しました。建築には多額のお金が必要で、ステーキ部の会員に大きな信仰が求められることは明らかでした。

そのような中であって、私は決して忘れることのできない素晴らしい経験をしました。

仕事がとても忙しい日でした。2時頃、秘書からポール・グッドウィンという人物が面会したいと言ってきていると連絡がありました。予定表を見ると別にそんな約束はありませんでした。ポール・グッドウィンという名前自体覚えがないうです。私は秘書に、とても忙しいし、約束もないのだから、断わって欲しいと言おうと思いました。しかし、どういうわけか、ポール・グッドウィンに会ってみようという強い気持ちを感じました。

ひきもきらない忙しさの中、せわしげにオフィスのドアを開けた私の前に立っていたのは、何と4歳ぐらいの小さな男の子でした。母親が応接室にいるのを見てすぐにわかったのですが、その子は私たちのステーキ部のフォーコーナーズ・ワード部に所属する、グッドウィン家の子供でした。小さなポールは両手をポケットに入れて立っていました。私を見上げるそのまなざしは自信にあふれていて、これは何かとても大切な話できたのだなと思いました。

私はポールをオフィスに招き入れました。椅子に座って向き合いましたが、ポールの体は小さくて、その大きな目も机越しにやっと見えるくらいでした。「さて、グッドウィン兄弟、私にどんな話でしょうか。」私はこう尋ねました。

ポールは何も言わずに、ポケットの中からしわくちやになった1ドル札を取り出して机の上に置きました。そして、もう一度ポケットに手を突っ込むと、今度は25セント玉を取り出しました。それから、25セント玉をもうひとつ、そして10セント玉と5セント玉を1枚ずつ出し、全部机の上に置くと、私の目をみながらかう言いました。「このお金、教会を建てるのに使って下さい。」

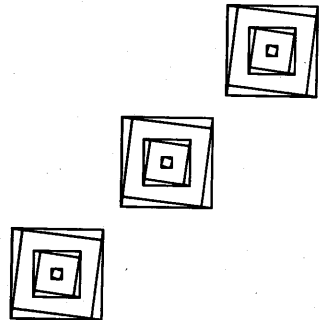
「教会って、ステーキ部センターのこと？」と尋ねるとポールはうなずきました。

「素晴らしい子だね、君は。でもポール、この1ドル65セントはだれからもらったの。」そう聞いた私にポールはこう言いました。

「夏になって、庭にかぼちゃの種まいたの。そしたら大きくなったから、ぼくの小さい車にのっけて、近くのうちに売りに行ったんだ。それでもうけちゃったの。新しいステーキセンターに使ってね、このお金。」

私の目に思わず涙があふれてきました。私はポールを抱きあげ、かぼちゃを売って作ったお金はとても貴いもので、天のお父様も喜んでいらっしやると話しました。

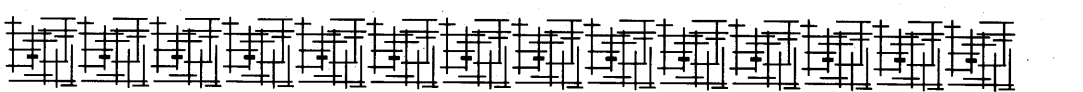
その時、私はステーキ部の会員たちには、この大きなチャレンジに応えるに十分な信仰があると確信したのです。



夏のない年



ピーター・K・ベルビル



## スミス家の人々にとって、地球の裏側で起きた火山爆発による穀物の被害は致命的なものでした。

**19**80年のセント・ヘレンズ山大噴火は新聞紙上ににぎわせ、人々の間に火山に対する新たな認識と関心呼び覚ましました。火山の噴火という現象は非常に衝撃的であると共に、その影響も甚大で、多くの人の耳目を集めます。しかし、一旦休息状態に入ると、人々の好奇心も静まり、噴火という事実は歴史記録の片隅へ追いやられ、ほとんど忘れ去られてしまうのです。

こうした歴史の断章の中に、ひときわ異彩を放つ火山噴火の記録があります。それは末日聖徒イエス・キリスト教会の歴史の中でも小さな役割を演じていますが、そのことはほとんど知られていません。その火山は、1815年に爆発を起こしたジャワの東、スンバワ島にあるタンボラ山です。

噴火があった日付の記録はまちまちで、4月5日であったり、7日であったり、その噴火を記した記録や、「噴火」の定義の仕方によって異なっています。しかし、4月7日説を採り、時差を考慮すると、タンボラ山の爆発は北アメリカの時間で1815年4月6日に起こったということになります。

山の高さは初め4,000メートルありましたが、爆発によって2,850メートルまでけずられ、直径が24キロメートルもあるカルデラができました。噴出物の総量については意見が一致していませんが、150立方キロメートルという説が最も一般的です。タンボラの町の海岸線は5.4メートル沈下し、

噴火の様子は1,600キロ離れた所からも眺められました。その被害は半径480キロメートル以内において最もはなはだしく、そのあたりでは丁度モルモン経の第3ニーファイ8章にあるのとまったく同じような暗闇が3日にわたって続きました。高熱の噴煙は四方から大気を引き寄せ、ハリケーンを引き起こし、あらゆる建造物を倒壊させ、すべての命を奪い去りました。

私たちにとって興味深いのは、この噴火が末日聖徒イエス・キリスト教会の歴史に一役買っていることです。タンボラ山の噴火によって大気中に多量の火山灰が噴き上げられ、このために太陽光線がさえぎられて地表は摂氏1℃前後にまで冷えしました。一般にはこれが原因で、1816年を「夏のない年」と言わせた寒冷化現象が起きたと信じられており、合衆国の北東部諸州では6、7月に雪に見舞われ、8月には穀物が霜の被害を被るという有様でした。これまでの数年間苦しい生活をしてきたスミス家の人人にとって、この穀物の被害は致命的なものでした。これに他の要因も加わり、彼らはバーモントの地を離れざるを得なくなりました。家財をまとめてニューヨーク州パルマイラへと移って行きました。ここで、若きジョセフ・スミスは一連の驚くべき示現を受け、モルモン経を手にするようになるのです。

# キ ケー ト コレ ョ チ

**あ**る総大会の時のことです。幾人かの話者から教会の発展について報告があり、私は神殿、訪問者センターの建設、毎月より多くの国々へ派遣されていく宣教師の増加、輪を広げていく会員による伝道プログラムに心をときめかせていました。

その時、私の心の中に小さな声がしました。「あなたの隣の家はどうか？」

すると、間髪を入れずもうひとつ別な声が聞こえてきました。「うちの隣の家族は全然見込みなし。」

実際私はそう思っていました。特にその日の夕方は、我が家の庭でいたずらをした隣の8歳、10歳、12歳の3人の子供を捕まえ、怒り心頭に発していたのです。

隣にミラー家（仮名）の人たちが引越して来てからちょうど1週間後のことでした。6歳になる我が家の娘ポニーが額に傷を作って泣きながら帰って来たのです。「隣のジェリーに石ぶつけられたの。」

10歳のキャシーがふんまんやる方ないという顔で言いました。「隣のジェリーったら、ポニーが自分たちの猫にさわったからって大きな石ぶつけてきたの。ポニーが泣き出したら、ジェリーのお母さんが出て来たんだけど、ジェリーったら、私たちが悪口言ったなんてでたらめ言うの。そしたらジェリーのお母さん『うちの子のこと、いじめ

ないでちょうだい。自分の家の庭で遊んだら』なんて言うのよ。」

「私たちだれのことも悪口なんて言わないのよ、お母さん。」8歳のシンシアがまじめな顔つきで付け足しました。

我が家の5人の子供は近所の子供たちとよく口げんかをすることはありましたが、そんな時でも、ひとまず家に入れて気持ちを落ち着かせると、1時間ぐらいたったらまた一緒に遊び始めます。ところがミラー家の奥さんは自分の子供が何をしても、かばう一方なのです。

我が家の庭で隣の子供たちを捕まえた時、私は彼らを母親のところへ連れて行き、激しい言葉で叱りつけました。「今度うちの庭に石を投げたり、小さな子をいじめたり、窓からのぞきこんだりしてごらんさない、おまわりさん呼びますからね。それと奥さん、よその子でなく、御自分の子供をきちんとさせたらいかがですか。そうすればこの辺りも、また元のように静かになりますわ。」

私は体を震わせながら家に帰ってきました。ところが翌日になると、怒りは静まり、自分が間違ったことをしてしまったことに気がつきました。「ミラー家のような人たちに対してこそ、末日聖徒としての模範を示さなければならなかったのに。その反対のことをしてしまったようだわ。あんなことをしてしまって、何の得るところもないの

## エスター・ムーア・ブラウン

に。もうあんな怒り方は2度としたくないわ。」私は声に出して祈りました。「天のお父様、どうしたらよいのでしょうか。御子でしたらどうなさるのでしょうか。」

はっきりとした答えが返ってきました。「大きな愛を示しなさい。」

その答えについてよく考えてみると、なかなかやりがいのあるチャレンジでした。私はまっすぐ台所に行き、チョコレートケーキを作りながら、ミラー家の人々のこと、そして彼らが私たちにしたことだけでなく、私たちが彼らにどんな態度をとっていたのか、また人々に善を施された救い主の模範についても話し合いました。

ケーキが出来上がると、私はそれをもってミラー家を訪ねました。あいにく奥さんは留守で、一番年上の子にケーキを渡しました。「このケーキはあなたたちのために作ったのよ」と言うど、3人は驚きとうれしさが入り混じった複雑な顔をしました。

「おばさん、きのうは随分あなたたちのこと怒ったけど、あまりいい気持ちじゃなかったわ。でも一番悲しい思いをしているのはだれかしら。あなたたちのお母さんよ。お母さんはあなたたちのこと、とても愛してるのよ。だからあなたたちがしてはいけないことをすると、とっても苦しむの。お互いもっと仲良くして、良いお隣同士になりましょうね。」

「わかったよ、おばさん。ぼくたちもそうする」とトムがきまり悪そうな顔をして、つぶやくように言いました。

私が帰ろうとすると、3人が声をそろえ

て、「おばさん、ケーキをどうもありがとうございました」と言いました。

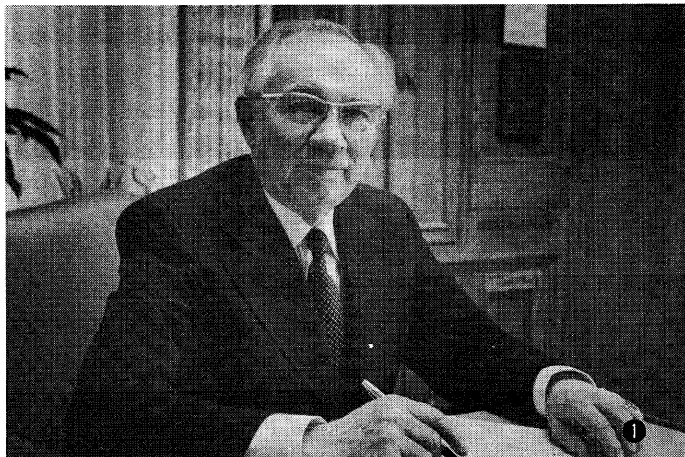
それから1カ月の間、私はこの小さな行ないがもたらした変化に驚かされました。家に石が飛んできたり、末のふたりの娘が意地悪をされて家に駆け込んでくるようなこともなくなりました。そして3人の子供たちは私を見かけると必ず「こんにちは、おばさん」と明るいいあいさつをするようになりました。

それでも私はまだ、あの時怒ったことを深く恥じていました。ミラー家の奥さんとは顔を合わせることもありませんでしたし、自分から会いに行くということもしていませんでした。シンシアとボニーが昼食の時に私に次のような話をした時がありました。特にどうこうということはしませんでした。「ボニーは、車輪のところをだめにしちゃうからって、ジェリーにレーシングカーを借してあげなかったの。そしたらジェリーが泣き出して、おばさんが家の中から出て来たの。でもおばさん、ボニーのことは何にも言わないで、その代わりジェリーに、『あなただって、自分のおもちゃをボニーに壊されるとしたら、貸したくないでしょう』って言ってから、家に入って、少し自分のしてることを反省しなさいって言ったのよ。」

私は今でも訪ねて行って、あの奥さんに愛を示しておけばよかったと思っています。1カ月後、ミラー家は引っ越してしまいました。移転先もわかりません。しかし、私はひとつのチョコレートケーキが教えてくれたあの教訓を決して忘れはしません。

# ゴードン・B・ヒンクレー副管長 霊的な視点から描く その高潔な人格

十二使徒定員会会員 ニール・A・マックスウェル



**高** 潔な人物を霊的な視点から描き出し、いく過程においては、その初期の時代の軌跡を明らかにすることによって、後年どのように成長していくか、鮮明に予示される場合がよくあります。ゴードン・B・ヒンクレー副管長の半生の中にも表われているように、人格を陶冶する力というもの、場合によっては、驚くほど明確な形を取ることがあります。以下の一つ一つの物語がおのずとそれを立証していくことでしょう。

若い頃、ヒンクレー長老はしばらくの間セミナーの教師として働いたことがあります。今は教育委員会とブリガム・ヤング大学理事会をまとめた執行委員会の議長を務めています。セミナー・インスティテュートプログラムが全世界で飛躍的な発展を見せてきたこの数年間、彼はこの任にあって指導を進めてきました。

ヒンクレー長老は教育に対する幅広い見識を身につけ、1971年にはユタ大学から名誉校友賞を、1979年にはブリガム・ヤング

大学から人文科学の名誉博士号を受けています。

子供時代、ヒンクレー長老が初めて報酬をもらってした仕事は、デゼレト・ニュース紙の配達でした。それが、長じてからはデゼレト・ニュース出版社の社長となり、数年間その任にありました。

ヒンクレー長老は伝道においても、最も基礎となるところから一つ一つ積み重ねをしていきました。イギリスで専任宣教師として働いた後、1935年にヒーバー・J・グラント大管長から、現在の広報部の先駆け

となったラジオ放送・広報・伝道文書委員会の秘書として働くように求められました。

この仕事で得た体験は、1951年にデビッド・O・マッケイ大管長から与えられ、以後7年、教会幹部に召されるまでの間に務めた伝道管理部長としての働きによって、さらに厚みを加えました。そして後には、十二使徒定員会（教会伝道委員会）の一員として、全世界の伝道プログラムを監督することになったのです。

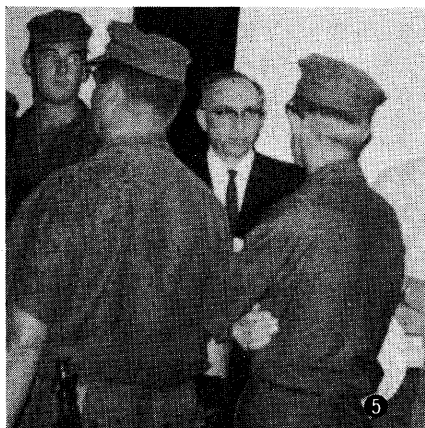
まだ若い頃、ヒンクレー副管長は何の子告もなしに、上院議員をしていたリード・



スムート長老の代理として話をさせられ、人々の賞賛を博したことがあります。今でもその理路整然とした自然な語り口のゆえに、全国向けのテレビ番組を初め、1980年の教会設立150年記念祭などの時のように、教会を代表してテレビに出演するようになる場合もあります。

ヒンクレー長老は朝鮮動乱中、州と連邦政府の選抜徴兵局と連携して働いた経験を持っていますが、それが政治的な事柄について大管長会を援助する特別業務委員会委

- 
- 
- ① 執務中のゴードン・B・ヒンクレー副管長。
  - ② 1932年ユタ大学卒業当時のヒンクレー副管長。
  - ③ 9歳頃のヒンクレー副管長。
  - ④ 1921年撮影。デゼレト・ニュース社役員会。同社はソルトレイク・シティーにおいて日刊紙を発行する教会経営の新聞社。左端がヒンクレー副管長。議長を務めるのはマーク・E・ピーターセン長老。（中央前向左側）
- 
-



- 
- 
- ⑤ 1967年、ベトナムに末日聖徒の軍人を訪問するヒンクレー副管長。
  - ⑥ 南米の地域を3年にわたって管理していた時代のヒンクレー副管長。
  - ⑦ 1973年、マージョリー姉妹と共に、ユタ州エデンで開かれた家族による誕生会において。
- 
- 

員長としての任務に対する備えとなったことには疑いの余地がありません。

また日曜学校中央管理会役員としての責任（伝道から帰ってわずか2年目に与えられた）は、教会員が福音をよく学び、終わることのない霊的な改宗を体験できるようにするための効果的な教授法という点に常に関心を払わせることになりました。

幼い頃に家庭の中で生まれた予言者ジョセフ・スミスに対するヒンクレー長老の大



きな愛は、祖父アイラ・N・ヒンクレーの影響を受けています。15歳の時、ノーヴーでジョセフの話聞いたことのあるアイラは、予言者ジョセフ・スミスを深く愛していたのです。

戦いとそのうわさのさ中、ヒンクレー副管長は朝鮮、ベトナム、また、戦火が絶えて久しいフィリピン、沖縄などに、軍人たちを何度も訪ね、平和への願いを深くすると共に、「戦争というつづれ織」を貫いて明るく光る「銀色の糸」をはっきりと見極める力をも身につけるようになりました。

ヒンクレー副管長はそのような信仰を抱きつつ、教会の新しい芽が成長していく姿を目にしてきました。1961年に再奉獻の祈りをするためにフィリピンを訪れた時は、全島でたったひとりの会員しかいませんでした。それが現在では、会員数41,000人、13のステーキ部と4つの伝道部を数えるに至っているのです。

十二使徒会在任中に極東地域で果たした責任は、ブリガム・ヤング大学の文化交流使節団との中国訪問など、最近の責任の先駆けとなるものでした。また、以前南米を



---

---

⑧ 1948年6月17日、ラジオ番組「土曜の宵・教会アフター」のリハーサル風景。この番組は20回にわたってJ・ルーベン・クラーク・ジュニア副管長(右)の講話を放送。中央はアナウンサーのリチャード・L・エバンズ長老。ヒンクレー副管長はプログラム・コーディネーターを務めた。

---

---

管理した時の体験によって、ヒンクレー副管長は教会で最も急激な成長を遂げている地域の事情にも精通しています。

ヒンクレー副管長は自己の人生を形成する力となった数多くの影響力に感謝することを忘れてはいません。ソルトレーク・シティーのイースト・ミルククリークステーキ部のステーキ部長を務めた後、1958年には教会幹部として召されましたが、初めて支持を受けた時にこう語っています。

「昨晩遅くマッケイ大管長と話をしてから、私は自分が歩んできたこれまでの道のりをずっと考えていました。自分ひとりでこの道を歩んできたわけではありません。今日ここに集っておられる素晴らしい方々、また……名前を思い出すことはできませんが、私に助けを与えてきて下さった多くの方々に心から感謝しております。」(Conference Report「大会報告」1958年4月, p.123)

ヒンクレー副管長がこのようにして備え

- 
- ⑨ ヒンクレー長老は長年にわたりアジア地域を管理した。1979年9月、韓国釜山において歓迎の教会員に囲まれて。
- ⑩ 1972年、ソルトレークを訪問したアリゾナの聖職者一行と会見。長年にわたり教会外の人々との親交を深めてきた。
- 

られてきたことは、教会員にとっても祝福となるでしょう。類ない素晴らしい経歴と共に、これまで培ってきた霊的な洞察力は、かつて例のない困難な時代の中、教会を導く指導者として、強く求められるものです。

ヒンクレー長老は福音の原則をしっかりと身につけた人ですが、人生の様々な経験の中で、それらの原則を応用する素晴らしい機会を数々得てきました。

ヒンクレー長老を評する言葉に、良識の人、ユーモアを解する人、善良な人、優しい人といったものがありますが、どれもその人となりを非常によくとらえています。

ヒンクレー長老と同じく、豊かな才能の持ち主である奥さんのマージョリー・ヒンクレー姉妹は、夫の高潔さと誠実さをたたえ、「夫は私や子供のためになることなら、どんなこといともいません」と言っています。ヒンクレー副管長にとって、随分昔いなかいた頃に覚え、今もって身につけている技術を生かし、庭いじりや壊れた物の修繕をするのは息抜きにもなり、鋭気を養うことにもつながるのです。

姉妹の言葉によると、ヒンクレー副管長は「どんな時も家族を心から信頼し、自分で能力の限界と思っているところをさらに越えていくように励ましてくれるということです。



ヒンクレー長老は何年も前に、家族制度の重要性について語ったことがあります、特に現在の社会の危機的状況を考えてみた場合、その洞察力の深さに気づかされます。

姉妹は、ヒンクレー長老の「明確な言葉で述べられる素晴らしい日々の祈り」はやはり家族にとって靈感の源であると言って



- 
- ① ヒンクレー副管長は30年以上教会の伝道プログラムの運営に携わってきた。1970年、教会本部への訪問者にヨーロッパの状況を説明する。
- 

います。またヒンクレー長老はどんな時でも底抜けに楽天的で、悩んでいる人々を見ると必ず、いつか良くなる時が来ると励ましを与えているということです。ヒンクレー姉妹に言わせると、「夫は音楽、文学、そして人生そのものを愛しており、側にいるだけでとても楽しい」そうです。

十二使徒定員会の集会で20年間席を隣合わせてきたハワード・W・ハンター長老は、ヒンクレー長老についてこう語っています。

「ヒンクレー副管長とは十二使徒定員会で20年間、席を隣合わせにしてきました。彼の知恵と判断力についてはよく知っているつもりです。これからは今までのように彼の力を隣合わせに感じることはできなくなりますが、彼が副管長として支持された時、私ほど喜んだ人もいないと思います。彼ほどの力を持った人はそういません。新しい召しを通して、教会に大きな貢献をしてくれますよ。」

十二使徒定員会の中で何年もの間ヒンク

レー長老と席を隣合わせにしてきたもうひとりの人、トーマス・S・モンソン長老はこう言っています。「彼は知性と思いやりが見事に融合しています。定員会で何か問題が出されると、即座にその詳細な点まで把握してしまいます。しかし、彼の答えは、必ず正義の要求が憐れみによって和らげられているのです。」またモンソン長老は、ヒンクレー副管長が「疲れを知らない働き手」であり、いつも「まず神の国と神の義を求めるという自分の信念を実証している」人であるとも述べています。

ヒンクレー副管長は、教会は結局一人一人の教会員の証、また自発的な働きと奉仕の上に築かれるという事実を非常に重く見えています。ある総大会の席上、ヒンクレー副管長は証についてこう語りました。「教会を中傷する人々が教義的な論争を仕掛けてくるかも知れませんが、聖霊の力によって私たちの心にくるこの証を打ち破ることはできないのです。」(Conference

---

⑫ 1958年4月総大会において登壇するヒンクレー副管長。デビッド・O・マッケイ大管長から新任十二使徒補助として紹介を受ける。

---

Report 「大会報告」1961年10月, p.116)

神はすべての人に福音の真理を進んで分かち合うという責任を教会に与えられました。この全世界に及ぶ伝道の責任に対するヒンクレー長老の愛と関心が衰えを見せたことは一度もありません。また、全世界に広がる道徳的な腐敗に対する明確な憂慮の念の表明を見てもわかるように、ヒンクレー長老が過去25年、総大会の席上語り続けてきた言葉は、日を重ねるごとにその奥行と深さを増し加えています。南米のある空港で、世の中に背を向けたひとりの青年と交わした言葉の中には、ヒンクレー長老の思いやりと見識がよく表われています。この時ふたりは平和や自由について打ち解けた話をしていたのですが、その青年の「正しい道徳律とは何か」という問いに対するヒンクレー長老の答えが、次のように書かれています。「私は少なからず彼にショックを与えるような話し方をした。『君の言う自由は妄想いぼでしかない、平和にしてもまやかしかだ。理由を説明しよう。』」（「大会報告1970—72」p.120）

ヒンクレー副管長は、きら星の如く並ぶ召しと責任を通して、絶えず主の訓練を受けてきた人ですが、教会本部の職員から始めて、大管長会の一員になったという点においては、この神権時代唯一の指導者です。



ジョセフ・F・メリル長老から大管長会に15分間の報告をするという責任を与えられた、熱心で、謙遜な、帰還後間もない元宣教師が教会本部を訪れたのが、そもその始まりでした。この時の報告は大管長会の意向によって約1時間半に延ばされましたが、ある意味では、いまだに続いていると言うことができます。小事に忠実な管理人、ゴードン・B・ヒンクレー副管長は今や、かつて自分が訪れたと同じ大管長会の部屋でほとんど一日中、執務をし続けているのです。



# 什分のー

## に関して思う 4つの事柄

グレン・レイタム

**私**が末日聖徒の人たちと初めて接触を持ったのは、まだ19歳の頃でした。その日の日曜学校の間、私は献金箱がまわされてきたら1ドル札を入れてやろうと、心ひそかに待っていました。招いてくれたモルモンの友人たちからけちな人間だとは思われたくありませんでした。とは言うものの、当時の私の仕事は時給35セントで、1ドルは大金でした。しかし、日曜学校の時には結局献金箱はまわってこず、とうとう閉会の時間になってしまいました。

そして、次の聖餐会の時間には2倍の額を払おうと決めて、今か今かと待ち構えていましたが、やはり献金箱はまわってきませんでした。それで、これはきっと礼拝堂を出て行く時に払うことになっているのだらうと考え、私はポケットに手を入れ、お金をすぐに出せるようにしていました。ところがそれも見込み違いで、差し出されるのは、握手を求める手ばかりでした。

いったん外に出てから、私は招いてくれたモルモンの友人にさり気なく聞いてみました。「君たちの教会ではいつ献金箱がまわってくるの?」

すると返ってきたのは「私たちの教会では献金箱をまわすというようなことはしないんだ」という答えでした。

私はちょっと信じられず、「本当に?」と思わず問い返しました。

それでも、「本当に」と、彼らの返事は同じです。

「素晴らしい、これこそ求めていた教会だ」と私は思いました。その時こそまさに什分の一について学ぶ時でした。

当時私は宗教のことで、長い間一生懸命祈り続けていました。心の中に満たされないうものがあり、霊的な安らぎを得たいと思っていたのです。宣教師から什分の一についてレッスンを受けた次の水曜日、私は求めていた心の平安を得ることができました。



ふたりの長老がレッスンを初めた時に、心にあふれてきたあの思いは決して忘れることがないでしょう。私はレッスンで学んだすべてのことが真実であると確信しました。そして次の日曜日、私は最初の什分の一を納めたのです。バプテスマを受けるまだ半年前のことでした。

教会員となって30年の間、私は什分の一に対して思い違いをしている人を数多く目にしてきました。その誤解によって、素晴らしい什分の一の律法がもたらす祝福を自ら閉ざしてしまっている人々がいるのです。その誤解の中から4つを選んで分析してみました。

### 誤解その1：什分の一とは金銭の問題である。

什分の一で求められるのは、お金ではなく、信仰です。教会が制作した『天の窓』という映画では、人に什分の一の戒めを守らせる原動力となる信仰の真の姿が強調されています。ロレンゾ・スノー大管長在任中の経済的苦境に直面した教会の様子が描かれています。教会は膨大な負債を抱え、解決へのめどは何もありませんでした。問題解決を目指す中で、スノー大管長は幾つかの提案を受けましたが、どれも教会員の献金に頼るというものばかりで、満足できるものはひとつもありませんでした。そして、スノー大管長はみたまのささやきに従い、35年ぶりという大干ばつで最もひどい被害を受けていたセント・ジョージへ旅立ったのです。

スノー大管長は希望をまったくなくして

いたその地の人々に、什分の一の戒めに従って、信仰を証明するようにと、靈感による訴えをしました。人々がこの勧告に応えた結果、文字通り天の窓が開かれ、人々の上に祝福が注がれました。

### 誤解その2：什分の一は金額でその価値が計られる。

額がいかに大きくても、什分の一であることに違いはありません。

私は1954年に自分がバプテスマを施したナバホ・インディアンの子供の貧しい少女から5セントを受け取ったことがあります。確認の儀式が済んでから、彼女は私のところに来て、その手にしっかりと握っていた5セント玉を差し出してこう言いました。「長老、これ私の什分の一です。完全な什分の一です。」

このナバホの少女の什分の一も、最も裕福な教会員が納める什分の一も、什分の一としては何ら変わるところがありません。

### 誤解その3：什分の一を納めると経済的に苦しくなる。

結婚して間もない頃の体験で、特に思い出深い出来事があります。私は当時、ブリガム・ヤング大学に在学中で、最初の子供が生まれ、引越しを終えたばかりでした。

子供が生まれたことによって、妻が働けなくなり、私たちは経済的に非常に苦しい状態にありました。ある時、1カ月の予算を立ててみると、最低限必要な出費に加えて什分の一を納めると、手元には50セントしか残らないという計算になりました。し



かし、私たちは、主が予言者マラキを通して言われたことを信じていましたので、いつまでもそのことで思い悩んだりはしませんでした。(マラキ 3：10—12参照) 私たちは什分の一を納めました。

次の月曜日、私は商店街で、額縁を並べた店先をのぞいていました。大学の友人から美しい銅版画をもらっていたからなのですが、むろん額縁を買う余裕などあるはずがありません。しかし、そこを立ち去ろうとした時に、もう一度カウンターの向こうにいた若い店員のところに戻って、だれか塗装職人を探している人を知らないかどうか尋ねてみるようにという気持ちを感じました。私の家は父も祖父も塗装を仕事にしている、私自身もかなりの訓練を受けていました。季節が冬で、しかも不景気な時代でしたから、働き口がそうたくさんあるとは思っていませんでした。にもかかわらず、私は心に強く働きかけるものを感じて、その店員に尋ねてみました。

「ちょうど今朝、あるお得意さんが来て、腕のいい職人を知らないかと言ってましたよ」と言うと、店員はその人の住所を教えてくださいました。私はさっそくその家を探ね、昼からはほかの職人たちの監督役として、1時間2ドルという当時としてはかなりの額の手間賃で仕事をしました。以来、私は働き口がなくて困ったという経験が一度もありません。

什分の一を納めて豊かになることはあっても、貧しくなることは決してありません。什分の一を納めるなら必ず天の窓が開かれます。

誤解その4：什分の一として納めるお金は、もともと自分のもの。

ジョージ・アルバート・スミス大管長のある話を思い出します。スミス大管長がある裕福な教会員と話をしていた時、その友人は什分の一のことを話題にしてきました。彼は、自分は普通とは違う方法で什分の一を納めていると言いました。毎年収入の10分の1を銀行に預けておき、困った人がいたら、それを助けるために使うようにするというのです。「どう思う？」と彼は尋ねてきました。

スミス大管長はそれに答えてこう言いました。「君は他人の財産を随分と気前よく使う人だね。」(*Improvement Era* 「インプローブメント・エラ」1947年6月号, p. 357)

マリオン・G・ロムニー副管長も、什分の一は主に対する債務であって、いわゆる寄付金のたぐいとは違うと教えています。

「什分の一は、主が私たちの用に供するために作って下さった物に対する賃借料として、すべての人に課せられている債務です。私たちが什分の一を納める主は、優先的に債権の弁償を求め得る立場におられます。すべての債権者に返済するだけの分がない場合は、まず主に対して返さなければなりません。こう言うと驚かれるかも知れませんが、これは真実です。しかし、他の債権者たちは心配するには及びません。なぜなら、主は什分の一の戒めに従う信仰を持つ人を常に祝福されるので、その人の他の債権者に対する返済能力がなくなるということがないからです。」

# タピ・エスカ

リア・マホニー

かつてフィンランド領だったその小さな町の最大の行事はスキーレースでした。

**私**が少年時代を過ごした村があるカレリア地方は、1939年から40年にかけての戦争でソビエトに併合される以前はフィンランドの領土でした。湖や沼、川、丘の多い寒冷な気候の所で、スキーがとても盛んでした。

毎年厳しい寒が緩む2月になると、人々は冬ごもりの生活から目を覚まし、村はずれにある広いくぼ地に集まってきます。このくぼ

地はクロスカントリーレースのゴールになっていますが、それには幾つか理由があります。まず、夏の間丘の斜面を削って造成されたこのくぼ地は、レースのゴール地点として用いるだけでなく、売店を出せるくらいの広さがあったことです。レースの





日には、ミートパイやソーセージのおいしいようなおいが辺りに立ちこめます。もうひとつは、雪で覆われたこの砂地の場所が、天然のスタジアムになることです。くぼ地の上の方に立つと、ゴール直前の直線コースが見渡せ、1位の人のゴールインの瞬間がよく見えるのです。

レースのために多くの準備がなされました。年長の子供たちは役員から青い紙の腕章をもらい、観客がコースに入り込んで、レースの邪魔をしないように整理役を務めます。レースは、年齢、性別などで様々なグループに分けられ、年をとった人たちもいつも結構良い成績を収めていました。グループごとに色のついた紙テープで表示されたコースを走ります。しかし、何と言っても最大の見ものは壮年男子による30キロレースでした。このレースで日頃の努力の成果を発揮して優勝した人は、その1年、村の英雄です。農閑期の農夫、靴屋、商店主など多くの人が、勝利を手にした自分の姿を夢見ます。

当時私たち子供には、タピ・エスカという英雄がいました。彼は大人でしたがとても背の低い人でした。しかし、彼ほど楽しく、面白い人もいませんでした。私たちは背の高さがそう変わらないということで、彼に親近感を覚えたのかも知れません。また彼が小さな体のことで悩んでいたことを、子供ながらに察していたのだらうと思います。「エスカ」と呼ばれていましたが、本当は「エナリ」という名前だったような気がします。「タピ」はフィンランド語で「ずんぐり」とか「ちび」とかいう意味で、もともとは侮辱するつもりで付けたあだ名だったのでしょう。でも私たち子供には、そんなことは何でもないことでした。その年、

私たちはタピ・エスカがスキーレースで優勝するに違いないと思っていました。

しかし問題がありました。実を言うと、彼はそんなにスキーが上手でなかったのです。最初の年、彼は壮年者の部に出場しましたが、結果は散々なものでした。10キロのコースを3周するのですが、第1位の人が入って来た時、タピ・エスカはようやく1周目を回ったところでした。やっとゴールに着いた頃は、ほかの選手たちは皆サウナぶろ（フィンランド特有の蒸しぶろ）に入っていたり、家に帰る途中だったりという有様です。くたくたになってゴールに入ってきたタピを待っていたのは、がっかりした顔つきのわずかな子供たちだけでした。

そのレースの翌日から翌年冬があけるまで、タピ・エスカは寸暇を惜しんで、コースでスキーの練習をしました。夏にはヴォークシ川で泳ぎをしたり、軍用の大きなボートをこいだりしました。背こそ伸びませんでしたが、筋肉が隆々としてきました。私たち子供は大喜びで、これだけ筋肉がついて、練習を積めば今度こそ優勝間違いのないと思いました。私たちは地道に練習を重ねるなら、それだけで十分優勝できると考えていました。映画の中の物語はいつもそうでした。

しかし、タピ・エスカはその年もだめでした。それでも今度は最後の団に混じってのゴールインでしたし、少なくとも、何時間も遅れたわけではありませんでした。それに私たちのほかにも彼が完走するのを見ていた人がいたのです。私たちはタピの足は大きな人たちと競争するには短か過ぎるのだと思いました。そして、もうレースに出ることはないだらうと。

ところが翌年、タビ・エスカは私たちに、「シス」というフィンランド語の意味を身をもって教えてくれたのです。「シス」とは強固な意志、勇氣というような意味です。このシスこそ、彼に備わっていたものなのです。彼は練習、練習、また練習の毎日続けました。次のレースの頃には、私たちはタビは必ず優勝すると確信していました。もっとも、毎年そう信じ続けていたのですが、今度こそは絶対に間違いないと思ったのです。

選手たちは大股<sup>おほまた</sup>で雪を蹴散<sup>けりち</sup>らしながら、森の中へ入って行きました。1周目、2周目と過ぎ、ついに3周目になり、選手たちはまたコースを森の中に進んでいきました。私たちもスキーを付けていましたので、中には選手たちの姿が見えてきたら、ゴールのくぼ地から先頭の選手の所まで滑って行くという者もいました。最初に姿を見せるのは我らが英雄タビ・エスカと信じ切っていたのです。

私たちは寒さの中を待ち続けました。木々も雪をかぶって真っ白でした。目に留まる何本かの煙突からは煙がまっすぐに上っていました。頬<sup>ほ</sup>は切られるように冷たくなっていました。しかし、たちまち体中が燃えるような出来事が起きたのです。森の外れから町一番の小さな男タビ・エスカが姿を見せたのです。しかし、今や彼は町で一番の大男となっていました。彼は先頭を切っていました。大人たちまで立ち上がってタビ・エスカに声援を送りました。

彼は丘に差しかかりました。その足は目に留まらないような速さで上下に激しく動いていました。その時です。彼の後ろにぎこちない格好で進んでくるひとりの大男の姿が見えてきました。この足の長い邪魔者

が転ぶか、スキーを折るかして、絶対タビ・エスカを追い抜かないようにと心の中で念じた人が随分いたと思います。しかし、ふたりはくぼ地の上の所で競り合いになり、最後は大男の方が先にゴールインしてしまったのです。

しかし、私はそれ以来、何べんその大男のことをかわいそうに思ったかわかりません。1位になった彼に向かって歓声を挙げる人はほとんどいませんでした。タビ・エスカがゴールインした時は手の付けられないほどの大変な騒ぎになりました。私たちはタビ・エスカの所に殺到しました。青い腕章を付けた年長の子供たちもそれを止めることはできませんでした。私たちはタビ・エスカをぐるりと取り巻くと、スキーもろとも胴上げをしました。タビの頑張りを知っていた町の人たちもそれに加わりました。中には人目をはばからず泣いていた人も何人かいました。私たちは彼が1位ではなく、2位だったことをすっかり忘れていたのです。小さな体に不屈の精神を秘めたこの人は、決してあきらめてはならないことを教え、私の少年時代の英雄となったのです。

このレースが行なわれたのは1938年でした。そして翌年第二次世界大戦が始まり、多くのものを奪い去りました。スキーレースは行なわれませんでした。私にも年長の子供の中に入り、青い腕章を付けて観客の整理に当たる機会は巡ってきませんでした。タビ・エスカにも最初にゴールラインを踏む力があることを証明する機会はやって来ませんでした。しかし、私やみんなにとって、その必要はなかったのです。彼は真の勝利者であることを、余すことなく示してくれたのですから。

# より速く より高く より強く

ロバート・L・バックマン

「月並みな人間になりたいと思いません。私にはできる限り優れた人間になるという権利があるんですからね。」

オリンピックの開会式ほど感激的な光景はありません。万国旗がはためく巨大な競技場の中、トラックを行進する選手団に、何万人もの観衆から声援が送られます。とりどりの色彩にあふれたその光景は、まさに壮観と呼ぶにふさわしいものです。平和を象徴するハトが何百羽と放たれ、祝砲が鳴り響きます。やがてギリシャのオリンピアで太陽の光からともされた火が聖火ランナーに運ばれて入場し、聖火台に点火されます。

参加選手は皆その胸中に、金メダルへの熱い闘志をみなぎらせています。オリンピックのモットーとしてよく知られている、ラテン語の“Citius, Altius, Fortius”という言葉は「より速く、より高く、より強く」という意味です。この3つの言葉にはオリンピックの歴史そのものが言い表わされ、人類が進歩成長の過程において塗り変えてきた様々な記録が要約されています。「より速く、より高く、より強く」この言葉には、永遠にやむことのない人類の向上心がよく表われています。この言葉が示す理想を追い求めて生きる人間の姿は、オリンピックとスポーツの記録の中に明らかです。1920年代、ジョニー・ワイズミュラーは水泳界において史上最高の泳者と言われていました。彼はオリンピック出場前の67試合で世界記録をぬりかえていました。1924年と1928年の大会では、彼は毎回5つの金メダルを獲得しました。それが現在では、十代の少女が彼以上の記録を出しているのです。長い間、1,600メートルを4分以内の記録で走ることは不可能であると考えられてきました。多くの選手がこの壁を破ろうとして懸命な努力を続けましたが、ついに1954年5月6日、オックスフォードにおいて、

イギリスの医学生ロジャー・パニスターが3分59秒4のタイムを出して、世界中を驚かせました。その時から、数多くの選手が人間の能力の限界に対する古い観念を打破してきました。そのひとりにジム・リュンという高校生がいました。彼はこの種目で3分59秒の記録を出しましたが、居並ぶ強豪の中では8位にとどまったに過ぎませんでした。リュンはこれまで約20回、4分以下のタイムを出していますが、現在イギリスのスティープ・オーベットが保持する世界最高記録は3分48秒8という驚くべきものです。

砲丸投げの最長飛距離は18.2メートルが限度であると考えられていましたが、1956年のオリンピックにおいてパリー・オブライアンがこの神話を打ち砕き、現在では22.47メートルが世界記録になっています。

また、1896年ギリシャで開かれた第1回目の近代オリンピックで円盤投げの金メダリストが出した記録は29.09メートルでしたが、現在の世界記録は70.85メートルに達しています。

私がまだ若かった頃、ボブ・リチャーズは、棒高飛びで4.5メートルという信じられない記録を出しました。一昨年開かれたモスクワオリンピックでは、6人の選手が5.49メートルのオリンピック記録を破りましたが、その後でポーランドのウリスロウ・コザキヴィクスが5.69メートルという世界新記録を出しました。彼は次に5.73メートルに挑みました。結局は失敗に終わったものの、2回目の試技はわずかにバーに触れただけで、5.7メートルの高さであれば楽に越えていたはずなのです。

1954年、イギリスのオックスフォードにおける競技会でロジャー・パニスターは1,600メートル4分の壁を破った最初の走者となりました。



こうした選手たちの活躍は確かに「より速く、より高く、より強く」の精神を實際私たちの目の前に繰り広げて見せてくれます。ではチャンピオンは一体どのようにして作られるのでしょうか。彼らをして過去の記録を更新させ、表彰台の最上段に導くものは一体何なのでしょう。私は、スポーツ競技の勝者が備えている特質は人生のあらゆる試しの中で勝利を治めてきた人々にもあてはまるものと信じています。

## 望　　み

すべてが整い、語られ尽くしたとしても、実践がない限り、なにごとにも達成されはしません。ロジャー・バニスターは、4分の壁を破った後で、希望という言葉で「今まで成し遂げてきた以上のものを自己の中から引き出す力」と定義しました。彼は新記録を出したそのレースの間、自分自身にこう語り続けたそうです。「ロジャー、たとえ膝をついてしか走れなくなっても、とにかく走るんだ。」イリノイ大学の名コーチ、ポプ・ツピックは、人間にはどんな時でももうひとふんばりする力が残されているという信念を持っています。彼はこう言っています。「力の限り走って、もうこれ以上は一步も無理と思える時でも、もし目の前に大きなライオンが現われたとしたらどうですか。また力をふりしぼって走り出すんじゃないですか。」

選手たちは肉体的な苦痛に耐えて訓練をします。それは、実際試合の最中に痛みに襲われたりすることがあり、そんな時でも、試合は続けていかなければならないことを胆に銘じているからです。不思議に聞こえるかもしれませんが、彼らは苦痛に耐えて

いる時にこそ力がついてくると言います。肺を広げ筋肉を伸ばせば確かに苦痛を伴います。しかし、それによって、さらに力を増し加えることができるのです。人生においても同じことがいえます。

ミシガン州ランシングステーク部カラマズワード部のジョージ・T・ヨハンセン兄弟は、大学時代の級友だったピート・カバローのことを話してくれました。彼は身長が1メートル50センチにも満たず、体重も45キロそこそこでしたが、何としても運動選手になりたいと思っていました。そのカバロー（スペイン語で『馬』の意味）が、クロス・カントリー・レースに出場しようと決心しました。

最初の年、ピートは何とか完走はしたものの、競技場にたどり着いた時には、観客席にはもうだれひとり残っていませんでした。しかし、次の年には、前回よりは良くなり、3年目には観客がまだスタンドに残っているうちに完走するまで進歩しました。4年目には観客は口々にこう言いました、「今年はカバローに何とか優勝してもらいたいね。」しかし、だれもそんなことが実現すると考えてはいませんでした。

それでもまだ、もしや、という期待はあったのです。観衆は、ラスト・スパートをかけてくる先頭グループの中にピート・カバローの姿が見えはしまいかと、競技場へ続く丘の方に目を向けていました。最初に現われたのは長身の足の長い選手でした。期待がはずれ、ため息ともつかぬどよめきが起こり、見物人の中には席を立ち始める人人もでてきました。

ところが、丘の上に突然ピートの姿が見えてきたのです。場内は騒然となり、声援が湧き起こりました。「走れ、ピート！ がん

ばれ、カバロー！」まるでピートが優勝したかのように1位の走者はまったく忘れられていました。人々の心には今日に至るまで全力を尽くしてレースに挑んだ彼の姿が刻まれています。ある意味では、ピートこそ真の勝利者と言えるのかも知れません。

## 個人的な努力

個人的な努力という点で私が知っている最高の模範は大学時代のジム・ソープの場合です。レーマン人の血をひく彼は、カーライル・インディアン学校に通っていました。そこで、だれも達成できなかった数々の記録を出していきました。彼はフットボールチームの主力選手のひとりで非常に俊足を誇り、よく冗談半分に、自分がどちら

の方向に走っていくかを相手チームに予告していたそうです。ボールをキックすれば64メートルは飛ばしました。

ある年にはソープの走る、蹴るの大活躍で強豪ハーバード大学を打ち負かしたこともあります。また陸軍士官学校のチームと対戦したことがありますが、この試合で彼は相手側からのキック・ボールを拾い上げ、そのまま一気に90ヤードを駆け抜けてタッチダウンしました。しかし、これは反則がからんで無効にされてしまいました。しかし、その後で、ソープはまたボールを拾い上げ、今度は95ヤードを駆け抜けて得点を挙げてしまいました。

陸上競技で連戦連勝の強豪、ペンシルベニア州のラファイエット単科大学チームと対抗試合をした時のことです。ジム・ソー

1912年、スウェーデンのストックホルムで開かれた第5回オリンピック大会において、ジム・ソープは近代5種競技と10種競技の両種目に勝利を収めました。



ブはひとりの付き添いを伴ってその会場に現われました。ラファイエット大学の方には48人もの選手団で来ていたので、おかしく思った大会役員が尋ねました。「カーライル・インディアン校は選手がふたりしか見えませんが、まさかこれで全員というわけではないでしょうね？」それにソープが答えました。「いいえ、選手は私ひとりだけです。もうひとりマネージャーですよ。」

その日の試合で、ソープは、走り高飛び、幅飛び、砲丸投げ、120ヤード・ハードル競争、同じく220ヤード・ハードル競争で優勝し、100ヤード短距離競争では、3位入賞を果たしたのでした。結果は71対41で、カーライル・インディアン校の勝利でした。

ハロルド・コノリーは左腕の骨折を何度も繰り返し、左腕が右腕に比べて大分弱く

なっていました。彼は左腕を訓練し強化するために、ボストン大学の正選手たちの後ろの方でハンマー投げを始めました。しばらくすると、他の誰よりも遠くへ投げられるようになり、競技会に出場しました。後に彼は世界記録を破って、金メダルを獲得しています。彼は、自分の最も弱い部分を、最も強い部分に変えたのです。

ボクサーのジョー・フレイザーがこう言っています。「皆が皆、選手になったり、チャンピオンになれるわけではありません。しかし精一杯の努力をして、自分に磨きをかけることはだれでもできるはずです。」

## 自己信頼

世界記録は競技が始まる以前に、すでに

1971年、ジョー・フレイザーは、ニューヨークで開かれたボクシング15回戦の末、モハメド・アリに判定勝ちしました。



作られているという場合がよくあります。

「いずれ200メートル背泳の世界記録を更新する人が出てきますよ」とアメリカの水泳選手ジェド・グレイフは、1964年のオリンピックで予言しました。そして、だれがその記録更新をすると思うかとの質問に対して、グレイフは、「私です」と答えたのです。実際記録は彼によって破られました。オーストリアの重量上げ選手ジョゼフ・シュタインバッハは、1906年アテネで開かれたオリンピックの特別大会に出場したものの、アマチュア資格に疑いをかけられていて、偏狭な観客から非難を浴びせられました。彼は悄然と退場し、結局2位のギリシャ選手が優勝ということになりました。国旗が掲揚されると、観客から歓声が湧き上がりました。その時です。シュタインバッハは再び会場に戻ってきて、優勝者がやっとの思いで持ち上げたバーベルに近づき、頭上に軽々と3度持ち上げたのです。

1952年、人間機関車と呼ばれたチェコスロバキアのエミル・ザトベックは10,000メートルと5,000メートルの両レースで金メダルを獲得しました。彼は自らこの勝利を祝して、今度はマラソン競技に出場すると発表をしました。しかし、彼にはそれまで42.195キロメートルの距離を走った経験は1度もありませんでした。

「勝てる見込みはあるんですか」と報道記者に尋ねられると、ザトベックは答えました。「勝てると思わなければ、出場なんかしませんよ。」

24キロあたりの地点でザトベックは優勝候補のイギリスのジム・ピーターズにびったりと就いて走っていました。

「お互いもうちょっと速く走らないといけませんね」ザトベックはこう言うと、ピ

ッチを上げ、ピーターズとの間をどんとどんと広げていきました。そして笑みを浮かべながら勝利のテープを切ったのです。

コロラド州デンバーのプロフットボール・チーム、ブロンコスに所属するフロイド・リトルは自分を信頼することについて、簡単に次のように言っています。「月並みな人間になりたいと思いません。私にはできる限り優れた人間になるという権利があるんですからね。」

## 正 直

古代におけるギリシャの競技会では、ルールに違反したり、審判員を買収した者は罰金を課せられ、自分の名前とどのような反則を犯したかを刻んだ彫像を立てなければならないことになっていました。おそらく古代のオリンピックにおいて最も驚嘆すべきことは、1,000年にわたる年月の中で、この彫像がわずかに13体しか作られなかったという事実だと思います。しかし、スポーツの世界ではそのようなごまかしをしないということはもちろん、ほかにも正直さを求められる場合があります。

ゴルフのトーナメント競技会には、出場選手がスコアカードに間違った記載をしたり、サインをしないままスコアカードを提出した場合には失格となるという決まりがあります。著名なゴルファーであるゲーリー・プレイヤーは一度これをやって、ある名高いトーナメントから外されたことがあります。スコアリング・テントにいただれかがサインするよう注意してやってもよかったようなものではないかという質問を受けた時、プレイヤーはこう答えました。

「人生には責任というものがあります。」



自分の責任を他人に肩代わりしてもらうことはできません。これは私の責任でした。それをしなかったのですから、その結果は自分で引き受けなければなりませんよ。」

1936年に開かれたベルリンオリンピックでは、ヒトラーが白人こそ最も優れた民族であると声高に叫んでいました。しかし、アメリカ選手団の中にいた、10人の黒人選手はヒトラーの意に反し、いかなる国の選手団も寄せつけない優秀な成績を上げました。その中でも著しい働きをしたのが、ジェス・オーエンスでした。ヒトラーは開会式においてこのオーエンスとの握手を避け、黒人選手団に対する明らかな差別待遇を見せました。これに対してオーエンスはただ肩をすくめただけで、「いずれにせよ、私はヒトラーと握手をするために、はるばるやって来たわけではない」と言い、結果的には金メダルを4つも獲得したのです。走り高飛びで、彼が世界記録を破った時、最初に彼をたたえたのはアメリカチームの仲間ではなく、互いにしのぎを削り合う中ですっかり感激していたドイツの選手ルズ・ロングでした。

「こんなに素晴らしい試合は初めてです。あなたこそ最高の人です。」片言の英語で彼は呼びました。

オーエンスがロングの両手を取って固く握りしめると、スタンドから一斉に拍手が湧き上がりました。そしてふたりの選手は互いの肩を抱き合いながら、トラックに向かって歩き始めました。ヒトラーが観戦していたにもかかわらず、観衆は手放しで喜び、歓声はいつまでも鳴りやみませんでした。

1932年、フィンランドのラリー・レーティネンは5,000メートル競争に優勝しました。

アメリカのヒル選手はこのレーティネンに最後のホーム・ストレッチで戦いを挑みました。観衆は総立ちとなりました。ヒルが追い越そうとすると、レーティネンは急にヒルの方に曲がってきました。ヒルがこれを反対側に避けようとする、またはレーティネンは彼の前方をさえぎるようにしてきました。結局ヒルはわずかの差で、レーティネンに逃げ切られてしまいました。

観衆のレーティネンの非を訴える声がやまず、判定員も優勝の発表ができないまま1時間以上過ぎてしまいました。しかし結局レーティネンの行為は反則には該当しないということで、彼の優勝が発表されたのです。

レーティネンが表彰台の最上段に登ろうとすると、彼を非難する観衆の大きな声が一斉に沸き上がり、競技場に響き渡りました。そしてオリーブの冠が頭上に置かれた時、レーティネンはこれを取って段を降り、ヒルの頭に冠を載せたのでした。

## 自己訓練

オリンピック選手のトラック競技コーチを務めたディーン・クロムエルがこう言ったことがあります。「自分の生活の中から、最善を尽くす上で妨げとなるものを取り除きなさい。」

プリンストン大学から全米代表選手として選抜されたり、プロのバスケットボールで選手をしたこともある現上院議員ビル・ブラッドレイは、こう語っています。「自分で自分を鍛えなくちゃなりません。一定の場所を決め、続けて25回成功するまでそこからシュートを続けるんです。自分を鍛えておけば日曜の朝でも、ベッドからはね起き

て、教会に行けるようになりますよ。」

モルモンであり、オリンピックで800メートル走に出場したウエイド・ベルはこう言っています。「トラックはまさに試しの場です。そこでは肉体が欲しないことを精神が強制できる場です。きょうは440ヤードを60秒で、10回走りました。終わりの4回あたりは、とてもきつくて足がちぎれてしまうかと思いました。でも精神力で何とか走り続けました。」

傑出した者となるため喜んでその代償を支払おうという人があまりにも少なすぎます。これはいかなる分野においても言えることです。

## 失敗することもあると 覚悟しておく

クリフ・サーシュマンは1960年のローマ・オリンピック大会では、400メートル・ハードルで銀メダルを獲得したものの、1964年の東京大会には予選で敗れ、出場の機会を失ってしまいました。同じ町に住む数人のファンからサーシュマンを慰める手紙が届きましたが、彼はその返事の中でこう書きました。

「私のことであまり心配しないで下さい。ある人たちを見ていると、かえって私の方が心配になってきます。

汗にまみれ、肉体的にも精神的にも耐えて、練習を続けてきた長年の苦労があつという間に無に帰してしまいました。しかし私はやるだけのことをしました。私は何もしないで手をこまねいているよりは、失敗しても、とにかく力一杯やる方を選びます。学校のフットボールチーム、合唱クラブ、勉強など、どのような分野の事柄において

も皆さんはオリンピックに挑むと同じ気持ちで取り組むことができます。しかし、今持っている力以上のことをしようと努力しないでいて、どうして目標達成への自信が生まれてくるでしょうか。

……確かに試合で敗れた時は無念でたまりませんでした。しかし今となっては、くよくよせずにもう一度奮起し、一步一步少しずつ、勝利に向けて進んで行くしかありません。

私は自分で定めた目標に到達できるとは思っていません。見込みは全然ありませんが、それでも私には自分を支えるものがあります。——希望と信仰です。

中には、スポーツで全力を尽くすことの満足感や、学業で良い成績を修めた時の喜び、仕事を完成させ、また、全力を尽くしたという気持ちでそれを振り返る時の素晴らしい気持ちをまったく知らない人がいます。

……頂上には部屋が幾つもあります。しかし自分で登ろうとしない人のための部屋はひとつもありません。」

## 再 起

ハンガリーのカロリー・タカクスは世界的な射撃の名手として知られていました。彼のたったひとつの望みはオリンピックで優勝することでした。ところがある日、車で帰宅の途中、事故に遭い右腕を切断しなければならなくなりました。利き腕をです。

タカクスの快復は、はかばかしくありませんでした。それは肉体的というよりはむしろ精神的なチャレンジでした。彼は絶望の淵に沈んでいました。彼を助けたいと思う人はいましたが、結局は何もできませんでした。タカクスは友人を避けるようにな

りました。家族でさえ彼がどこにいるのかわからないというようなことがありました。しかし、カロリー・タカクスは備えていたのです。彼はひとり引きこもって、左腕と照準を合わせる方の目を訓練していました。それは普通の人々が考える以上に頭脳を使う訓練でした。次のオリンピック大会の時にはタカクスの準備はできていました。競技を終えたこの片腕のハンガリー人は観衆の喝采かつさいの中を表彰台の最上段へと登り、金メダルをその首に受けたのです。

タカクスは射撃能力以上のものを私たちに示してくれました。人間の中には、あまり使われていないが、実に強じんな、再起への力が秘められていることを証明したのです。

彼は絶望の苦しみは敗北のしるしではな

く、それ以上の後退はもうないということのきざしであるという素晴らしい事実を自分で発見したのです。かつて私のある友人がこう言ったことがあります。「どん底まで行けば、後は再び上昇する機会も出てきますよ。」

## チームワーク

中国に「片手で拍手はできない」という諺ことわざがあります。人間の力を数える方程式では、1たす1の和は2でなく、11になるのです。一致のあるところには力があります。

1967年6月ブリガム・ヤング大学で全米大学体育協会のトラック競技大会が開催されました。この時、南カルフォルニア大学の4選手が、440ヤード・リレーで世界記

1936年、ジェス・オーエンスは、ロンドンで開かれた合衆国対イギリスのトラック競技対抗試合で、400ヤード・リレーに優勝しました。



録をちょうど1秒下回る記録を出しました。440ヤード・リレーにおける38.6秒という記録は、100ヤード短距離走の世界記録9.1秒というタイムと比べてみるとわかるように、実に素晴らしいものです。平均すると南カリフォルニア大学の優勝チームの各選手は100ヤードを8.7秒で走ったことになるのです。

同じ目標を持つ一人一人の力が合わさると、より大きな効果を上げることができず。人生は共に力を合わせて切り開いてゆくひとつの冒険です。そこには導く者とそれに従う者が必要です。また、互いに譲り合って進むことと、同胞に対する無私の愛が求められます。

## 神への信仰

真実の勝者は、持てるすべてを出し尽くした後に、さらに助けを求めて神に祈ります。

17歳のキャシー・ファークソンは、ある時、背泳で先頭の泳者にわずか15センチの差のところまで力泳していました。彼女の手足はほとんど感覚を失っていましたが、なお泳ぎ続けました。8メートル、7メートル、6メートル、5メートルと必死に泳ぎ続け、ついに優勝を手に入れました。その栄光の瞬間、彼女は涙ながらに言いました。「『神様、泳ぎ切る力を与えてください』とただ祈り続けていました。」

フレッド・ハンセンはまだ越えたことのない高さにあるバーを前にして、緊張と不安にかられていましたが、その興奮のさ中に父からの手紙を取り出して読みました。そこには次の聖句が書かれていました。「しかし主を待ち望む者は新たな力を得、わしのように翼をはって、のぼることができる。走っても疲れることなく、歩いて弱

ることはない。」（イザヤ40：31）その次のジャンプで彼はバーを飛び越え、棒高飛びの世界記録を達成しました。

アメリカの走者ギル・ドッズは、激しいレース中、どうしようもない疲れと痛みで、足が鉛のようになるのを感じました。彼は試合を放棄したいという気持ちと闘いながら、心から祈りました。「主よ、私の足を進めたまえ。」そして彼は優勝しました。

## 勝者の資質

私たちのほとんどは、決してオリンピック大会に出場することはないでしょう。しかし、オリンピックのモットーと精神は永遠の進歩を信ずる末日聖徒にとっては非常に深い意味を持っています。こうした理想は、私たちの生活のすべての面において絶えず進歩向上を目指すよう動機づけてくれます。全力を尽くし、歩みを早め、真実の勝者となるように私たちに励ましてくれるのです。

私が友とする若人の皆さんは、神の息子、娘です。もし皆さんが神の子として自分自身を深く信頼し、主の祝福を受けて成長することができるように生活を整えているならば、主はその望むことが正しいものである限り、すべての願いを聞きとどけて下さることでしょう。もし皆さんが自分の人生を有意義なものとし、奉仕の業を進めるために最善を尽くすなら、主が助けて下さるでしょう。主は皆さんの可能性を知っておられ、それを十分に発揮できるように助けて下さいます。そして、かつては考えも及ばなかったほどより速く、より高く、そしてより強く、人生を歩むことができるようになるのです。

（注：1ヤードは約91.4センチメートル）



ちい

とも

# 小さなお友だちへ



## マリアとカワランの花

はなし  
お話: マリリン・ナイトウ

マリアは寝室のまどから、じっと外を見ていました。そよそよと風のふく秋の白でした。風車が、まばゆいばかりの青空に向かって、くるく

るまわっていました。マリアはひっこしてきたばかりの家のまわりのけしきが、だんだんすきになってきました。

マリアもマリアのかぞくも、ずっと

スペインの首都のマドリッドにすんで  
いましたが、今年になって、みんなで  
いなかひっこしてきました。マリア  
のお父さんは、事務所のしごとをやめ  
て、おひやくしょうさんになったので  
す。

マリアはひろびろとしたけしきや、  
うねうねとつづくおかや、あちこちに  
ある大きな風車が大すきでした。「なに  
もかも、とつてもきれい。」野原をかけ  
まわりながら、マリアはよくそうひと  
りごとをいいました。あんまり長い間、  
外であそんだので、マリアのはだは、  
ちや色になってきました。

春になると、マリアはきゆうこんの  
うえつけのお手伝いをしました。長い  
時間、畑にかがんで、ひとつひとつき

ゆうこんをうえていくのです。

うえつけのきせつがおわると、夏で  
す。マリアは、夏のあいだ、風車をな  
がめたり、白の光をあびながらあそん  
だりしました。あたらしいお友だちも  
できました。

そうして10月のあるはれた白のこと、  
畑には海のようにおらさき色のクロッ  
カスがさきみだれました。

「うわあ、お父さん、こんなすごい  
けしきって見たことないわ。こんなに  
いっぱい花がさいたの見たの、わたし  
はじめて。でも、だれがこのクロッカ  
スを買ってくれるの。ムギなら食べら

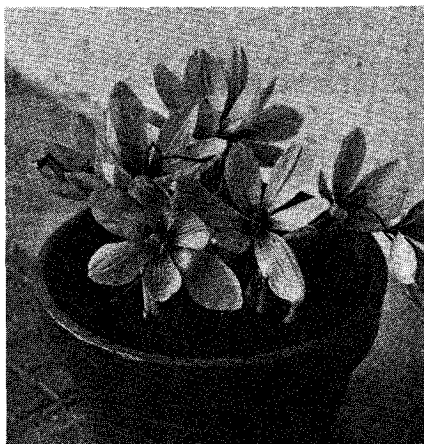


れるけど。」マリアはかおをかがやかせながら、さげびました。

「何か食べられるものも作ろうな。だが、かり入れがおわるまで、まっておくれ。そうしたら、お田さんがおいしいものを作ってくれるよ。」

マリアは、村の人たちがかり入れをするのをじっと見ていました。村の人たちはクロッカスの花を入れた大きなカゴをもってきました。おひるをすぎると、花をバラバラにするしごとがはじまりました。マリアは、びっくりぎょうてんしてしまいました。村の女の人たちは、むらさき色の小さな花から、まっ赤なめしべをぬきとりはじめたのです。そして、めしべをそっとカゴの中に入れ、バラバラにした花をポンポンほうりなげて、山づみにしました。

マリアは花の山の方へ歩いていって、



花をひとつ手にとりました。前にはあんなにきれいな花だったのに、バラバラにされてしまって、地面の上でおわれています。

こんなにたくさんのきれいな花をメチャメチャにしてしまうなんて、とマリアは思いました。マリアは、しぶしぶお田さんといっしょに、めしべとりをはじめました。カゴはまもなく赤いめしべでいっぱいになり、若い男たちが来て、はこんでいきました。するとまたからのカゴが来て、マリアもお田さんも夕ぐれまで、めしべとりをしました。

よく朝マリアは、きのうとつためしべが、たなにならべてあるのを見ました。スペインのあつい太陽がてりつけると、めしべはすぐにかわいてしまいました。お父さんはめしべをつつみにして、市場へおくれるようにしました。

マリアは、お父さんがめしべのつつみをトラックにつみこむあいだ、トラックによりかかって見ていました。「お父さん、わたし、どうしてこれを買う人がいるのか、まだわからない。花をバラバラにしてしまって、これで荷ができるの。」

お父さんは手をやすめて、やさしくマリアを見ました。「かわいい花をメチャメチャにして、こんな小さな、きた

ない、かわいたぼうにしてしまうなんて、ひどいことをすると思っているんだね。」お父さんはカゴの中から、カチカチになっためしべをひきぬいて、マリアに見せながらいきました。

「うん、そうよ。」マリアは目をおとしていきました。

「これは、サフランなんだよ。花のときはクロッカスだが、めしべをとってかわかすとサフランになるんだ。サフランは、スペインの黄金なのさ。」

「わたし、まだわからない。こんなもののことを、どうして黄金なんていうの。」

「サフランは、世界中でもほんの少しの場所でしかそだたないんだ。それに、うえつけて、かり入れをするのはすごくむずかしくて、おまえも見たとおり、みんな手しごとなんだ。64,000本の花から、400グラムのサフランしかとれないんだよ。だから、とても高い、めずらしいものなんだ。」お父さんはこうせつめいしてくれました。

マリアは、コックリとうなづきました。マリアは、やっと自分のしたしごとのかちがわりはじめました。「だけど、サフランにしたあとはどうするの。どんなふうにつかうの。」

すると、お父さんは目をかがやかせながらいきました。「サフランは、いろ

いろなものにつかわれるんだ。ギリシヤ人は香水にするし、いろいろな国で王様のきものをそめる金色のせんりよようになるんだよ。マリア、めしべを少しお田さんのところへもってお行き。サフランのすばらしいつかいかたをおしえてくれるよ。」

マリアは、サフランをお田さんのところへもっていきました。見ていると、お田さんはそれをこなにひいて、そつとピンにつめました。

その夜、かぞくのみんなはキッチンテーブルについて、夕ごはんを、まだかまだかまとまっていた。チキンや、エビや、ピノス貝や、やさいのいっぱい入ったパイイリヤが目の前に出てきたとき、マリアのかおは、パツとかがやきました。でも、荷よりもすてきだったのは、サフランのかおりのする、きいろいフワフワのお米でした。

「さあ、マリア、どうしてあの花をつんだのが、もうわかっただろう。世界中の人々がこのおいしいスパイスのかおりを、あじわうことができるようにするためなんだよ。」

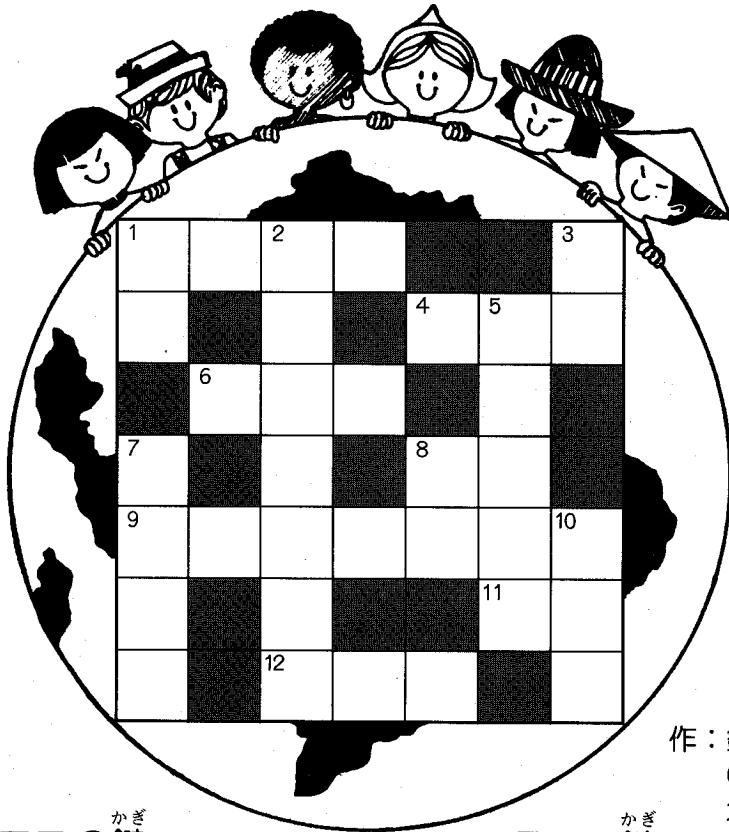
マリアは、うなづきました。マリアは、スペインの黄金で色づけされたお米をフォークですくいながら、ニコニコわらいました。心がうきうきして、しぜんにかおがほころぶのでした。



# クロスワード・パズル



作：鈴木則子  
 (堺ステーキ部  
 堺第1ワード部)



## ヨコの鍵

- より謙遜に祈るために〇〇〇〇をする。
- イエスはとげのある〇〇〇〇の冠をかぶせられた。
- 信仰と祈りにより〇〇〇〇は起こる。
- 福音はこの世の〇〇まで伝えられる。
- 神の小羊、エホバなど数多くの名で呼ばれているお方は。
- 天から降ってきた食物。
- 偉大な〇〇〇〇の計画。

## タテの鍵

- 小なることより〇〇なること起こる。
  - 1820年早春に天父と御子の訪れを受けた少年は。
  - アブラハムの妻は。
  - 福音の第1原則と儀式の3番目は。
  - 神会の3番目のお方は。
  - 「富んでいる者が神の国に入るよりは、らくだが〇〇の穴を……。」
  - 〇〇〇〇人を愛せよ。
- ☞こたえは47ページにあります。



イエス様は  
みなさんを  
とても愛しておられます

ジョリーン・メレディス

ジョリーン・メレディスによる七十人第一定員会会員  
テレク・A・カスバート長老へのインタビューより





デレク・エイ・カスバート長老は、イギリスのノッチングムで生まれました。ノッチングムというのは、ロビン・フッドがすんでいたシャーウッドの森の近くにある町です。

カスバート長老：わたしは、ほんとうにノッチングムの近くのおしろにすんでいました。もちろんそこは、ロビンフッドの物語に出てくるようなところですよ。そこには、まだノッチングム代官がいます。代官は、だいたいノッチングム市長をたすけるためにえらばれるのです。これは、もう何百年もつづいています。

シャーウッドの森には、大かしの木という木があります。大きなかしの木といういみです。町の人たちはロビン・フッドの木とよんでいます。その木には、12人の人が立ったまま入れるほどの穴があります。樹齢は1500年で、ロビン・フッドのかくれ家だったといつたえられています。遠くから、大ぜいの人がこの木を見にやって来ます。

カスバート長老もそのご家族も、改宗者です。

カスバート長老：わたしたちは、1951年1月のある夕べにバプテスマをうけました。当時は、今、せかいのそこかしこにあるような美しい礼拝堂はありませんでした。わたしたちの集会所は、とある古い一軒家でした。宣教師たちはそのゆかをはいで、バプテスマフォントをつくりました。わたしの家族は、そのバプテスマフォントで最初にバプテスマをうけたグループの中にいたのです。わたしたちはともしあわせて、むねをわくわくさせながら、バプテスマの時をまっています。天のお父様やイエス様が、わたしたちのバプテスマをのぞんでおられることを、知っていたからです。とてもさむい日でしたが、バプテスマフォントにありていくわたしたちの心は、あたたかくもえていました。

バプテスマと確認の儀式をおえたあとも、心の中にあたたかい気持ちのこっていました。バプテスマをうけて、神様のほんとうの教会に入ったことを知っていたからでした。その気持ちがあつたおかげで、わたしたちはまた出発することができました。きよく、じゅんすいな気持ち



ちをもつことができました。

カスパート長老は、運動が大すぎて  
す。長老は、よい食べ物<sup>うんどう だい</sup>を食べて、よく運動すれば、体をきたえることができる<sup>うんどう</sup>と考えています。

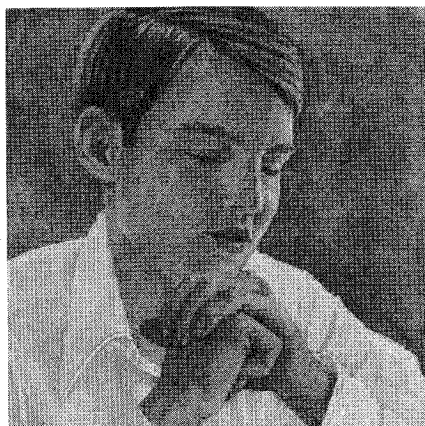
カスパート長老：なわとびはとてもよ

い運動になります。

わか<sup>わか</sup>ったころ、トラック競技<sup>トラック</sup>やフィールド競技<sup>フィールド</sup>をしていた時には、なわとびをよくやりました。長い道のりを走らなくても、ジョギングをしたのと同じようかがありますね。

父が兄とわたし

をスポーツ競技会へつれていってくれたときのことは、わすれられない思い出です。その時わたしは、生まれて初めてやり投げを見たのです。当時10さいのわたしには、とてもいんしょうできでした。しばらくして、わたしは中学校に入り、一生けんめいれんしゅうして、やり投げや円ぱ



ん投げだけではなく走り高とび、走りはばとび、中きより競走などでも、ゆうしょうするようにになりました。それから大学に行っても、ノッチンガム大学の代表選手になり、そのあと、やり投げと円ぱん投げのコーチになりました。

デレク・カスパート長老が12さいのとき、第二次世界大戦がはじまりました。カスパート長老は、<sup>がっこう</sup>学校での空襲避難訓練のことを、今でもはっきりとおぼえているそうです。カスパート長老とお兄さんは、お父さんをたすけてにわにもり土

をし、ぼうくうごうをつくりました。また、カスパート長老はイギリスに何年もつづいた配給制度のことも、おぼえているそうです。食物、着物、家具、何でも配給でした。カスパート長老は、一週間のうちに夕食のおさらのつた食物のことまでおぼえています。60グラムほどのバター、さとうがほんの少



し、肉ひとときれ、うまいけば、タマゴひとつだったそうです。みんな、自分たちで作ったやさいを食べて、おなかをみたさなければなりません。

カスパート長老：戦争中は、空襲のサイレンになると、よくお祈りをしました。そして、ま夜中に、ぼうくうごうにかけこんだものです。

カスパート長老は、子供たちについて、強いあかしをもっています。

カスパート長老：この地上にやってくる前に、子供たちはみんな霊として神様のみ前にすんでいたのだというはつきりとしたあかしを、わたしはもっています。子供たちは、つみもなく、じゅんすいなままこの世へやってきます。自分で自分のすることにせきんをもてる年になる前にしぬ子供たちがいますが、そのような子供たちは、つみがないので、神様

のみ前にかえっていくのです。「かの幼き小児らは、わが生みたる独子によりて世の始めより贖われるなり。」（教義と聖約29：46）

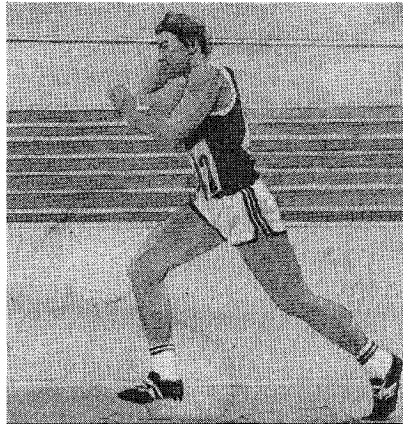
わたしは、すくい主のこのことばが大すぎです。「心をいれかえて幼子のようにならなければ、天国にはいることはできないであろう。」（マタイ18：3）

ステーキ部大会

に行くときには、そのステーキ部の子供たちについて、キンボール大管長のメッセージをつたえるのがたのしみです。それに、わたしのあかしを話したり、天のお父様がどんなに子

供たちを愛しておられ、お祈りの中で天のお父様に話しかけてほしい、天のお父様の愛にどんなに感謝しているかを話してほしい、と思っ

ていらつやいます。天のお父様は、いろいろなほうほうで、愛をしめしてください。たとえば、みなさんがこの地上にすめるようにして





くださいました。そして、家族をあ  
たえてくださいました。そして、何  
よりもすばらしいことに、とうとい  
御子イエス様をこの世におくつてく  
ださいました。

イエス様は、みなさんのことをと  
ても愛しておられます。ですから、  
この地上にやってきて、天のお父様  
のみもとへかえるにはどうしたらよ  
いか、おしえてくださったのです。  
そしてイエス様は、もしみなさんが  
わるいことをしてしまったとしても、  
天のお父様からゆるしていただいて、  
天のお父様のみもとへかえられるよう  
にしてくださいました。そうして、  
さいごに、イエス様はみなさんが家  
族とずっといっしょにくらせるよう  
にと、ご自分のいのちをささげられ  
たのです。

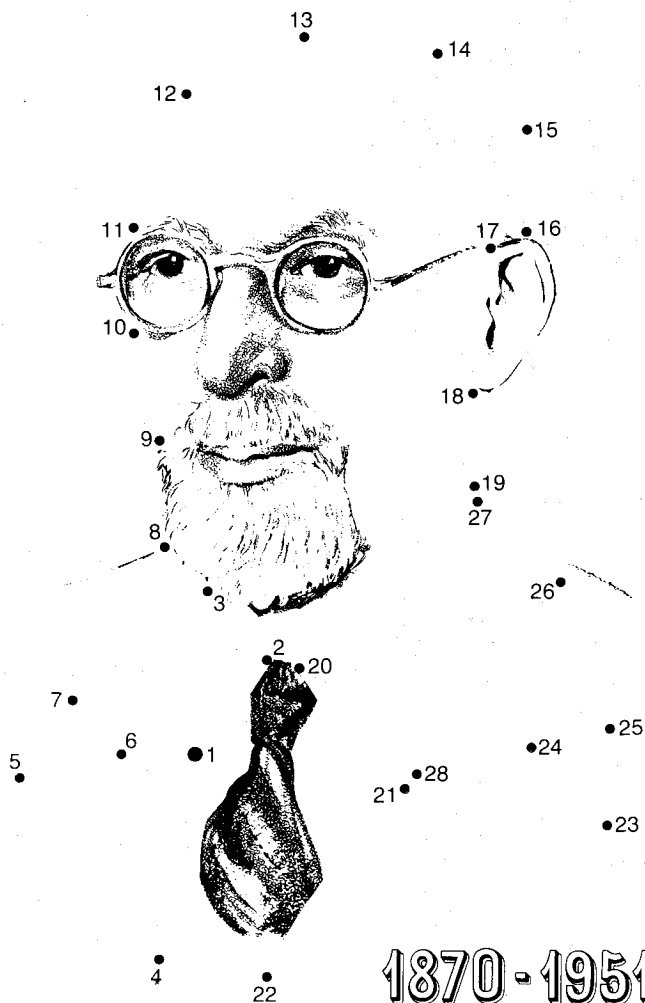
カスパート長老は、さいごに力強く、  
カスパート長老ご自身のあかしをのべ  
てくださいました。

カスパート長老：わたしは、イエス様  
がすくい主であり、生きておられる  
神様の御子であることを知っていま  
す。また、今でもイエス様が、神様  
のほんとうの予言者であるキンポー  
ル大管長をとおして、わたしたちに  
語りかけておられることを知ってい  
ます。みなさん、どうぞいつも、す  
くい主ならこうなさつただろう、こ  
うおつしゃつただろうと思つことを  
したり、言つたりするようにしてく  
ださい。そうすれば、いつかすくい  
主に会うことができ、すくい主は、  
そのうでにみなさんをだいてくださ  
るでしょう。

|     |    |     |   |    |     |
|-----|----|-----|---|----|-----|
| ダ   | 2ジ | キ   |   |    | 3サ  |
| イ   |    | ヨ   |   | 4イ | 5バラ |
|     | 6キ | セ   | キ |    | 7ブ  |
| 8セ  |    | フ   |   | 9ハ | 10テ |
| 11イ | エ  | ス   | キ | リ  | 12ト |
| レ   |    | ミ   |   |    | 13マ |
| イ   |    | 14ス | ク | イ  | 15リ |

42  
ペ  
ー  
ジ  
の  
こ  
た  
え

# ジョージ・アルバート・スミス



1870-1951



ジョージ・アルバート・スミスは、子供のころ腸チフスにかかりました。

当時、腸チフスはとてもおそろしい病気でした。お田さんは、お医者さんからジョージには水ものしかあたえないようにといわれたので、コーヒーをわかしました。もちろんジョージは早くよくなりたいたいと思いましたが、知恵の言葉をやぶりたくありませんでした。そこで、ジョージはお田さんに、コーヒーではなく水をもってきてくれるように、そしてワードティーチャーをよんでくれるようにたのみました。

すると、さっそくホークス兄弟がやってきて、祝福してくれました。そしてその次の日の朝のことでした。目をさますと熱は下がり、ジョージはずつと気分がよくなっていました。「たしかに神様がなおしてくださったのです。」何年もたってから、ジョージはこうあかししました。

若いころ、ジョージはセールスマンとしてはたらきました。それから農業団体や産業団体を管理し、銀行業にもかつやくしました。

しかし、ジョージ・アルバート・スミスにとって何よりも楽しかったことは、教会や教会の青少年のためにはたらくことでした。ジョージ・アルバート・スミスは40年もボーイスカウトプログラムのためにはたらき、スカウトの合衆国最高の賞であるシルバー・バ

ツファロー賞をうけました。また、宣教師として、ヨーロッパ伝道部の伝道部長としてもかつやくしました。彼はまた、インディアンに特別な友情をもった人でもありました。

1909年、ジョージ・アルバート・スミスはひどい病気にかかり、2年以上もはたらくことができませんでした。病気がよくなりはじめたある夜のこゝろ、ゆめの中におじいさんがあらわれて、こうたずねました。「わしの名前で、お前がどんなことをしたかを知りたいのだ。」ジョージはこたえました。「あなたのはじになるようなことは、何ひとつしていません。」

それから、ジョージ・アルバート・スミスはスミスという名前に、めいよをまし加えつづけました。ジョージ・アルバート・スミスは、十二使徒として42年はたらき、1945年に第8代目の大管長になりました。スミス大管長は「善意の大使」として、教会が世の中によく知られるように、また世の中の人々が教会に対してわるいことをしないようにはたらきました。また、大ぜいの貧しい人々をたすけました。

1951年4月4日、スミス大管長は81さいのたんじゆびに世を去りました。前合衆国大統領ハリリー・S・トルーマンは、こう語っています。「わたしは彼を、わが国の偉大な道徳的指導者だと思っている。」



「助けが要る者を自分たちで助け……」  
(モーサヤ4:16)

## 長崎大水害

### 長崎支部からの報告



左：福岡ステーキ部より送られてきた救援物資  
右：会員と宣教師が力を合わせての復旧作業

7月23日午後4時頃から降り始めた雨は、雷を伴い、午後7時から8時の一時間に長崎市内で118ミリメートルという驚異的な数値を記録、長崎市を中心に大きな被害をもたらしました。

特に市内鳴滝地区では崖崩れで一度に30名の方が生き埋めになり死亡しました。また東長崎地区では川が氾濫して田畑が川となり、付近一帯の家屋に泥流、土砂が入り込みました。道路はいたる所で寸断され崖崩れがあった山は爪でえぐられたような無惨な肌をみせております。市内を流れる中島川も氾濫し、繁華街は2メートルの水に浸り、完全に水没した地下街にいた人々は二階、三階に避難するという有様でした。

長崎支部の教会員および家族には死傷者行方不明者はありませんでしたが、一時は行方のわからない教会員が数名おり心配しました。しかし24日正午までには全員無事であることが確認されました。教会員の中では、数家族が家屋の床上浸水、崖崩れによる土

砂流入、家屋の損傷などの被害を受けましたが、幸い全半壊等の大きな被害は免れることができました。

長崎支部のある建物地下車庫が水没しただけで、マンションの2階（礼拝堂）、3階（クラスルーム）共まったく被害はありませんでした。

被害を受けた家族に対しては大雨の翌日（7/24）から教会員、宣教師が一体となり手分けして復旧作業の手助けをしました。暑さの中、水に浸った畳や家具の持ち出し、流入した土砂の除去などの復旧作業はなかなか大変でしたが、皆で力を合わせて行うことができました。

貯蔵用の缶詰をさっそく担当の家族のところへ持っていったり、御飯の焼き出しをしたり、相互扶助の精神がいたるところに発揮されました。

ステーキ部からもステーキ部長自ら運転

する自動車で救援物資が運ばれ、被害を受けた家族や市役所に届けられました。幸い食料不足によるパニック状態だけは免れましたが、予言者が勧告しておられることに従順に従い、普段の備えをすることがいかに大切であるかを改めて知ることができました。

また、互いに助け合うことの大切さをも学びました。ある被害を受けた姉妹の家族は、その姉妹を除いて皆教会員ではありませんでしたが、教会からの援助に何と云っていかかわからないほど感謝していると語っていました。この水害に対して多くのステーキ部、ワード部からのたくさんの救援物資や見舞の手紙、電話をいただき感謝しています。この紙面を通してお礼申し上げます。(レポーター：長崎支部支部長・塚原俊英)

## 日本ジャンボリー開催さる

### 末日聖徒の7団が参加



**シ** ャンボリーに参加する——それはすべてのスカウトにとって夢なのです。

全国のボーイスカウトが一堂に会するジャンボリーは4年に1度しか開かれず、対象者は原則として小学校6年生から中学3年までに限られ、会場の都合で加盟員の1割程度しか出席できないからです。

8月2日から6日まで、宮城県南蔵王山ろくで開かれた第8回日本ジャンボリーには、各地の末日聖徒イエス・キリスト教会が後援している11のボーイスカウト団体の内、次の7団がこの夢を果たし参加しました。札幌第23団(5名)、旭川第15団(2名)、江戸川第6団(8名)、武蔵野第6団(11名)、中野第12団(4名)、川越第12団(1名)、名古屋第89団(3名)。またアメリカからも3名の末日聖徒が参加しました。

全国のスカウトが待ちに待ったジャンボリーでしたが、大会前日に当たる8月1日の夜、もうひとつの大型の参加者—台風10号—がありました。激しい雨と風で大会会場は水びたしになりました。

一夜明けて8月2日、泥だらけの37万坪の広大な牧草地に忽然と8,000余の色とりどりのテントが立ち並びました。人口4万人の白石市郊外に、海外16カ国からの参加者を含む3万人の「街」が出現したのです。

▶ 3万人のスカウトが集めたジャンボリーの呼びもの「ジャンボリー大集会」

日が西に傾きかけた頃、1日がかりの設営を終えたスカウトたちが中央広場に集まって「友情と躍進の祭典」の開会式が始まりました。

期間中全員が集まる行事は、この開会式、4日のジャンボリー大集会、6日の閉会式の3つだけです。その他は8人のスカウトから成る「班」または4つの班で構成する「隊」の単位で、多彩な各種の選択プログラムに参加します。こうして各自が何年にもわたって身につけてきたスカウト技能と奉仕の精神を発揮しあい、分かち合うのです。むろん全期間キャンプ生活をするのですから、寝るためにテントを張り、食べるためのかまど、食卓、イス、食器洗い場を作るところから始めなくてはなりませんし、マキで炊事をするのです。したがってスカウトたちは非常に忙しいのです。

素晴らしかった大会にもついに終わりがやってきました。8月6日の夜、大管火を囲んだ閉会式の熱気は、光、プラスバンド、国旗、大会旗、隊旗のパレード、キャンドルサービスで最高潮を迎えました。少年たちは式が終わった後も、いつまでもいつまでも腕を組み、肩を抱き合って「つながる友情、日本ジャンボリー」と歌い続けていました。少年たちの心の中に、世界スカウト兄弟の一員であることの喜びが実体験として刻み込まれたのです。

今から4年後のジャンボリーに、さらに多くの末日聖徒と共に集うことができることを祈念しております。(レポーター：石川賢一、名古屋第2副ステークス部長、ボーイスカウト名古屋89团团委員)

## 第8回日本ジャンボリーに奉仕して

東京北ステークス

川越ワード部

天野 昭

ボーイスカウト運動が、英国のベーデン・パウエル卿によって始められてから75周年、ボーイスカウト日本連盟創立60周年を記念する第8回日本ジャンボリーが白石市の南蔵王山ろくで開催された。

8月2日夜の開会に先だって、1日の午後、現地に到着した私は、早速衛生班の任務についた。その夜は、台風第10号の余波を受けて午前2時頃から暴風雨がひどくなり、テントが飛ばされないように、ひと晩中押さえているという忘れ難い経験をしたが、これによって奉仕要員の絆はより強固なものとなった。「神と国とに誠をつくし、『おきて』を守ることを、名誉にかけて実行する」というボーイスカウトの誓いのもとに、8月4日午前9時から宗教儀礼が行なわれた。末日聖徒イエス・キリスト教会は今回初めて、キャンプ広場内に礼拝用の場所が認められ、野外聖餐会が、250名のスカウト・リーダーの参加を得て、2箇所で開催された。他の広場でも、神道(3,100名)、仏教(2万名)、カトリック(1,200名)、プロテスタント(750名)、世界救世教(1,650名)、金光教(1,500名)、黒住教(32名)、聖公会・天理教(不明)などの各教宗派が別々に宗教儀礼を行なった。

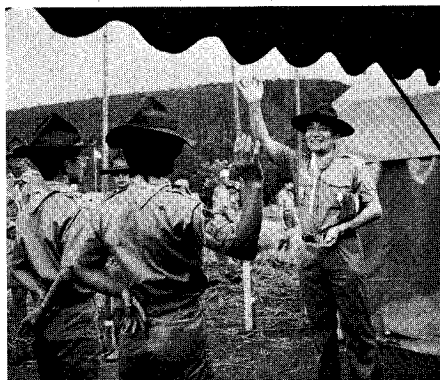
私は、衛生班で川越地区から奉仕された

2名の外科医の先生と眼科医の先生方と共に、24時間体制で救急監護業務に当たったが、多くは虫刺と刃物による切り傷に対する手当であった。

田中長老と共に日本連盟宗教部の主催する「聖職者の集い」にも出席させていただいたが、他宗派の方々と交流する機会も貴重な体験であった。私は16年前に、仙台で初めて指導者講習会を受けたので、なつかしい故郷の地で開催された今回のジャンボリーは、特に楽しい思い出となった。

日本連盟総長よりの感謝状を頂いて、雨の中を7日に帰途に着いたが、近い将来、モルモン<sup>①</sup>の勇壮なスカウトの祭典を開催することを夢想し、若い宣教師の群として伝道に出て行くのは、スカウトとして培った少年たちであろうと考えながら、天父に奉仕の機会を感謝した。私はジャンボリーを前に誕生した第5子に、永遠の生命にちなんで「永生<sup>②</sup>」と命名したが、これによって生涯スカウト運動に仕えるとの決意をさら

▼エリア・ボーイスカウト協議会委員長として出席された田中長老



に固めることができた。私は、イエス・キリストの回復された完全な福音が、次代を担う青少年の健全な育成の鍵であることを、心から証申し上げる。教会におけるボーイスカウト運動の発展と共に、立派な信仰に根ざした若人が専任宣教師として、アジアの近隣友朋国へ旅立って行く日が、必ず到来することを確信している。(あまの・あきら 1942年生まれ、ボーイスカウト埼玉県連盟川越地区事務長、川越第12団団委員長)



## 日本ジャンボリー に参加して

名古屋ステークス部  
名古屋第4ワード部

山本和寛

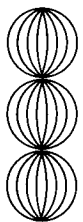
「友情と躍進」それが今回のジャンボリーのテーマでした。僕はこの大会で多くのすばらしい友人を得ることができました。そして美しい自然の中でたくさんの楽しい活動をしました。また宗教儀礼では、この教会の集会に出席して霊的なお話を聞くことができ、充実した5日間でした。

今、僕は自分がボーイスカウトであることと、ジャンボリーに参加することができたことを、心から神様に感謝しています。これから僕は、ジャンボリーで得た友情と経験を大切にして、ボーイスカウトとして、また、アロン神権者として成長し、躍進していくよう努力していきたいと思います。

(やまもと・かずひろ 15歳、菊スカウト名古屋89団ボーイ隊上級班長)



各地のたより



「ファミリーキャンプ」ますのつかみ取りに歓声

名古屋ステークキ部



▲岐阜県付知町で行なわれたファミリーキャンプに150名が参加

「サマーフェスティバル」180人が参加

高松ステークキ部



▲四国4県、それぞれのお国自慢の踊りを披露した盆踊り大会

**名** 古屋ステーキ部は、8月12日から14日まで岐阜県付知町で2泊3日のファミリーキャンプを開いた。付知川沿いのキャンプ場で若い男性、若い女性、独身成人、家族約150名が参加し、それぞれが独自の多彩なプログラムを楽しんだ。また教会が後援しているボーイスカウト名古屋89団のボーイスカウト、カブスカウト約35名も隣接のキャンプ場に陣を構え、ファミリーキャンプの参加者と楽しく交流した。

一番の呼びものは「ますのつかみ取り」で、スカウト、子供たち、独身成人が次々にますをつかみ上げる度に大きな歓声が上がった。もちろん、獲りたて焼きたてのますの味は格別であった。

また厳肅な点火のセレモニーと営火長、土

田ステーキ部長のお話で始まった最後の夜のキャンプファイヤーは、夜更けまで踊りの輪が切れなかった。

このキャンプ場で築いた兄弟、姉妹の絆は、今後の名古屋地区の発展の礎となることだろう。

なお今回のキャンプで4人の姉妹が若い女性キャンププログラムの最高の資格である「アドベンチャー」を手にした。(レポーター：名古屋ステーキ部活動委員会)

▼ファミリーキャンプを訪問した名古屋89団のスカウトたち



屋などの屋台が立ち並び、雰囲気盛り上げた。近所の方々も「こんなおまつりは何年も見たことがない」と言って、一緒に楽しい一時を過ごした。

今回のサマーフェスティバルは、家族みんなが楽しめるものにしたと、活動委員会を中心に1年がかりで準備したものである。そのかいあって満足いくフェスティバルにすることができ、兄弟姉妹の友情を深め、ステーキ部全体の結束を固める結果ともなった。(レポーター：高松ステーキ部活動委員会)

**高** 松ステーキ部では、8月12日(木)から14日(土)までの3日間、香川県大川郡南川の南川青少年の家において、「サマーフェスティバル」を開催した。当初の予想を大幅に上回り、180名の参加を得る盛況ぶり。

プログラムも趣向を凝らし、盛りだくさんの企画は参加者を楽しませた。

初日の夜、音楽祭が行なわれ、バンド演奏、創作ダンス、家族の発表などが次々と繰り広げられた。

2日目は、大運動会。四国4県のチーム対抗のゲームに元気な声援がこだました。夜になって行なわれた盆踊りでは、やぐらを建て、ちょうちんで飾り付けた会場に、氷屋、ジュース屋、わらびもち屋、おでん

## ●町田ステーキ部

独身成人プログラム

「サマーキャンプ」

「全き一日」をモットーに



**美** しい大自然に囲まれた奥相模湖青根キャンプ場で、8月19日(木)から21日(土)までの3日間、60名の参加を得て町田ステーキ部独身成人プログラムのサマーキャンプが行なわれた。

ステーキ部長会から与えられた「汝ら人の値は神の前に大いなることを憶えよ」というテーマのもとに、「青春に悔いなし」(全き一日)というモットーを掲げて行なわれたこのキャンプは、1日目が「準備の日」、2日目が「実行の日」、3日目が「報告の日」というプログラム内容で、参加者はそれぞれに完全な一日を過ごそうと努めた。

このプログラムを行なうに際し、私たち実行委員は体力と時間の不必要な浪費を避けるように心がけ、特に委員長は置かず心

## ●東京ステーキ部, 東京西ステーキ部合同

「若い女性キャンプ」

23名に「ヤーリング」の資格



◀等身大の人形を使って人工呼吸の指導を受ける「若い女性キャンプ」の参加者たち

**大** 型台風10号の通り過ぎた8月4日から6日までの3日間、東京ステーキ部、東京西ステーキ部合同の若い女性ガールズキャンプが行なわれました。はじめに計画していた神奈川県大平キャンプ場が、台風の被害が大きく使用中止となったため、1日、日程を遅らせ、八王子第2ワード部での合宿形式のキャンプとなりました。

から主の導きを祈り求め、周到な準備で臨んだが、それでもキャンプ当日直前の申し込みなど、不測の事態がいろいろ生じた。

ステーキ部指導者のアドバイスを受けながら行なった、グループのリーダーとなる人々のトレーニングなどの甲斐もあって、実行委員、グループリーダー、一般会員が皆積極的に参加し、一人一人の胸中に確かな変化をもたらされたのである。

最後の日の証会は両親、兄弟姉妹、神様、教会に対する愛で満ちあふれた。

キャンプ最終日の翌日の聖餐会<sup>せいあんかい</sup>で、多くの会員がキャンプで得た証を述べた。その中のある姉妹の証であるが、彼女はキャンプから帰ったその晩、グループの一人一人の顔が浮かんできて涙がとめどなくあふれ、夜遅くまで眠れなかった。それを見て、ど

うして泣いているのかと心配そうに尋ねてきた母親に、彼女は神様とこの教会に対する愛を切々と話したそうである。

人はどうすれば天父のように完全になれるのであろうか。それは神と人への感謝の気持ちを忘れずに、真理と自己の使命を深く理解し、家庭、教会、社会に奉仕していく中で達成されていくのではないだろうか。私たち実行委員は、このキャンプを通して、一人一人が新たな飛躍をしていくための奉仕をする機会に恵まれたことを天父に心から感謝している。

キャンプファイヤーで、きらめく星空に向けて高く燃え上がったあの炎のように、この末日を生き抜きたいものである。(レポーター：小山雅也 町田ステーキ部サマーキャンプ実行委員)

横浜ステーキ部からキャンプのスペシャリストを迎え、指導者を含め、約30人の参加者が「若い女性のキャンプ技術修得プログラム」の第1段階である「ヤーリング」の資格を取るために多くの新しいことにチャレンジし、23名が無事に資格を取得しました。

1日目には、近くの富士森公園で、もやい結び、本結びなど、何種類ものロープの結び方を学び、また、ナイフのとぎ方なども、なれない手つきながら、実際に全員が行ないました。

2日目には、朝、高尾山へ出発し、山頂まで助け合いながら登り、帰ってからは、八王子ワード部丸山幹夫兄弟の指導によって救急法を学びました。等身大の人形を使った人工呼吸の練習では、姉妹たちも指導

者たちも初めての経験に真剣な表情で取り組んでいました。2日目はハードなスケジュールのなか、キャンプファイヤーの後も、指導者を囲んで、班ごとに勉強会があり、おそくまで霊的な話し合いが続けられました。

台風で計画を、ほとんど変更しなければならなくなったガールズキャンプでしたが、指導者のある兄弟は「人生には変更はつきものである。問題はその変化にどう対応するかということである。これこそキャンプでの一番の教訓であったような気がする」と話していました。姉妹たちはそれぞれ、心の中に証とたくさんの思い出をもって、3日間のガールズキャンプを終えました。(レポーター：山梨芳枝 東京西ステーキ部八王子第2ワード部若い女性会長)



## 多数の講師を招いて 開催された 「学生協会リーダーズ・セミナー」

**去**る7月27日から30日の4日間、学生協会（LDS、SA）主催のリーダーズセミナーが国立オリンピック記念青少年総合センターで開かれた。これは、学生が「将来、社会で大きな影響力を発揮する末日聖徒になるために、学生時代に何をしなければならぬか」を共に考えるために開かれたものである。今回のセミナーには、女性15名を含め、北は北海道から南は鹿児島まで全国から約50名の参加があった。

まず、菊地良彦長老の米国への転任に伴い新しく学生協会理事長となった田中健治長老の基調講演があり、その後、オリエンテーリング、講演、グループディスカッション、夜のフェスティバルなど、多彩なプログラムが展開された。

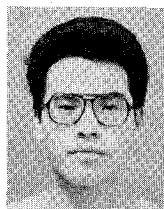
教員である諸先輩から学生に対する期待、学生時代にしなければならないこと、人生に対する考え方など、様々な提言があり、それを受けて熱心な討議が繰り返された。これを通して参加者は信仰に根ざした学生生活を送るための答えをそれぞれに得た様子であった。そして「やる気のある学生が相互に啓発しながらバリバリ行動しよう」と決意を述べ合い、解散した。なお今回のセミナーで講演した方々は以下の通りである。（敬称略）

- 「はばたけ学生諸君」田中健治〔地区代表、学生協会理事長〕
- 「成功する社会人」松本潔〔東京西ステ

ーキ部第1副ステーキ部長、内外証券（株）取締役社長室長兼人事部長〕

- 「思いをコントロールするには」増井重之〔東京ステーキ部第2副ステーキ部長、日本教育トレーニング・システム（株）経営〕
  - 「学生伝道について」池内英二〔教会教育部東京インスティテュート・インストラクター〕
  - 「人生設計と学生生活」新山靖雄〔東京ステーキ部ステーキ部長、インタラック（株）代表取締役社長〕
  - 「福音に根ざした教育にかける私の半生」高良慎清〔大阪ステーキ部祝福師、奈良立正芸術学院校長〕
  - 「末日聖徒の社会での役割」柏倉仁〔地区代表、三機工業（株）勤務〕
  - 「昇栄するための備え」鈴木正三〔地区代表、地域教会教育部部長〕
- （レポーター：日本中央学生評議会会長・佐藤正温）

## 学生協会に思う



鹿児島地方部  
鹿児島支部

牧 善一郎

**今**回リーダーズセミナーに出席するまで、学生協会に対して私はまったく関心がありませんでした。「東京で何やら始めている」という感じでしか受け留めていなかったのです。でも今回のセミナーに出

席し、学生協会の持つ可能性に目を開かせられる思いでした。

この学生協会が力を付けていくと、素晴らしいものになると思います。日本の教会において、タバナクルのように社会に通用する伝統を作ることができるのではないのでしょうか。大学におけるサークルを通して、日本中の大学が結びつくのは確かに難しいことですが、この教会の学生協会なら、それも可能だと思います。また、この組織を通して伝道を強力に推し進めていくこともできるでしょう。

今回のセミナーの8人の指導者の講演を聞いて、私は天のお父様が、我々若者に期待を寄せておられるのを実感しました。学生は、もっと学校に帰らないといけない、教会の中だけにどっぷりつききってはいけなくて学びました。これからの学生生活に新たな希望がわき、やれるという勇氣を得ることができました。

私は学生生活を通して、神の栄光を現わしたいと思います。今、世の中には目的を失い、苦しんでいる若者がたくさんいます。我々モルモンの学生が頑張り、彼らを助けなければいけないと感じます。

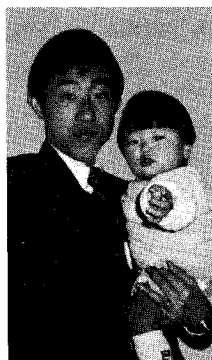
手をたずさえあって、この学生協会の活動を成功させていきましょう。(まき・ぜん いちろう 鹿児島大学、20歳)

---

最近、マスコミで話題になっている原因不明の子どもの病気「川崎病」を体験した家族の証

---

「川崎病」の正式病名は「急性熱性皮膚粘膜リンパ節症候群」。昭和37年、日赤医療センターの川崎富作・小児科部長が発見、この名前が付けられた。4、5歳未満の乳幼児に集中的に、発病、高熱が続き、体中に発しんがてき、手足のむくみや首のリンパ節ははれ、突然、心筋コウソクで死亡するケースもある。ウイルス、ダニなどの原因説があるが、まだ、はっきりしていない。



## 川崎病にかかった娘

東京北ステーク部  
ひばりヶ丘ワード部  
増井重治

**直** 美が入院したのは、雪が横なぐりに降る1月16日でした。4日前から続いていた熱を下げようと、私も妻も必死でした。リンパ節の腫れを除いて、川崎病の全ての症状が現われてきました。

見舞いに来た私の顔を見ると、手を伸ばして抱っこをせがみます。つらい思いをしているわが子を抱いて胸がしめつけられる思いがしました。それを見守る妻の目には涙があふれていました。特に私たちが大変心配したのは、39度前後の熱が3週間たっても一向に下がらないことでした。1歳になったばかりの幼子にはどんなにか苦しいことでしょう。

私は2度、神権による祝福をしました。

また兄や監督にも癒しの儀式をお願いしました。神殿の祈りの名簿の中にも娘の名前が加えられました。そして病状は次第に良くなってきましたが、熱は依然続いています。この子は幼くして主のみもとに召されるのではないかと考え、不安な気持ちになることもありました。

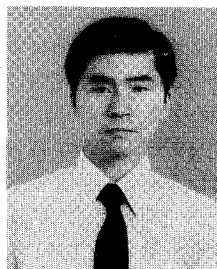
妻は、菊地長老に祝福してもらえたら熱が下がるのではないかと言いました。幸い私たちは菊地長老と同じワード部に属していました。数日たって菊地姉妹から、長老が都合をつけて病院に行く、という電話を頂きました。2月4日、午前6時少し前、菊地長老は、娘の癒しのために病院に来て下さいました。菊地長老の片手と私の右手が娘の頭の上に置かれ、直美は聖なる神権の祝福を受けました。私と妻は信仰を持って臨みました。ふたり共みたまを感じ、妻は治ると信じていましたし、私も断食を通して証を得ました。不安な一夜を過ごした翌日、24日間も続いた高熱が下がったのです。

「主はいつも苦しみや落胆から人々を解き放つとは限らない。一見不都合に思われることが目的を持った計画の一部であったりするからである。苦難は、人々に忍耐、堅忍、自制を教え、人々を聖徒にする。」  
(スペンサー・W・キンボール)

「われわれは神から幸をうけるのだから、災をも、受けるべきではないか。」(ヨブ2:10) ヨブの模範にも力づけられました。

娘は3月10日、心地好い春の日ざしをいっぱい受けて退院しました。(ますい・しげはる 1955年生まれ、ひばりヶ丘ワード部第2副監督)

## 「人の<sup>あた</sup>値は神の前に 大いなることを<sup>おぼ</sup>憶えよ」



刑務官（八王子  
拘置支所勤務）

東京西ステキ部  
府中ワード部

柏 勇一郎

今から4年前の昭和53年、当時、私は鹿児島支部の一会員でした。ある用件で鹿児島刑務所を訪問した時のことです。刑務所の門を入ると、受刑者らしい人々が荷車を運搬しながら、額に汗して働いている光景に出くわしました。私は、用事を忘れて立ち止まり、彼らに見入ってしまいました。その時、心の中に何か熱いものを感じ、次の聖句を思い出したのです。「汝ら、人の値は神の前に大いなることを憶えよ。」  
(教義と聖約18:10)

それ以来私は、「天父は、こうした受刑者たちをどのように心に留めておられるのだろう。彼らに対して何かできることがあるなら、それは何だろうか」と考えるようになりました。月日がたっても、あの時の思いは心から離れませんでした。当時の私といえば、自分自身が何者で、どんな使命があるのか、また自分の進路をどうするか、はっきりとした確信を持ってない時期でした。

そうした一切を解決するために翌年3月に上京しました。「この私が刑務官になって

収容者に福音を少しでも伝えることができたら……。彼らはそれをどのように受けとめてくれるだろうか。」しかし、刑務官の仕事は簡単ではないと聞いていました。まず、安息日に勤務することも有り得ること、また普通人と違い、受刑者を社会から隔離しているので、そこには特種な、しかも様々な問題が生じやすいこと、さらには殺人、強盗、暴行、傷害、詐欺、覚せい剤事犯等のあらゆる受刑者を収容し、社会復帰に備えさせ、更生に向けて教化教育するのがこれまた至難の業であること、などです。若輩の私が、刑務官としてやっていけるだろうか、彼らの影響によって私の霊性が揺らぐのではないだろうか、私は様々な情況について思いめぐらし、考えに考えました。そして祈った結果、刑務官という仕事の中で、末日聖徒としての私の使命を果たすべきだとのみたまを感じました。こうして翌年（昭和55年）3月、府中刑務所に着任しました。

あれから2年と5カ月がたちました。仕事をしていく中で、罪を犯した人々がいろいろな意味で愛を必要としており、家族の存在を必要としていることを、彼らとの短い会話を通して知りました。中にはそうした「愛」を求めて、宗教を日々の生活に取り入れようとする人も少なくありません。

今、世の中にはあらゆる犯罪が横行しています。人々の愛が冷ややかになり、サタンの軍勢があらゆる手段を用いて人々を惑わそうとしています。ちょっとした気の緩みが人々を罪人と化してしまう時代なのです。他人事ではありません。私たちも一歩過れば、彼らと同じ境遇になり兼ねないのです。だからこそ、彼らに立派に更生して

欲しいと願っています。

ある日、執行猶予付の実刑判決を言い渡された人を釈放した時のことです。その人は私にこう言いました。「先生、こういう所に来るのは、これが最初で最後にします。もう酒はやめます。」酒が原因で罪を犯したことを心から悔いているようでした。彼の瞳からは大粒の涙があふれ出て、もうそれ以上の言葉は不要でした。「元気で頑張れよ。」「はい、先生お世話になりました。」そう言って深々と頭を下げると、彼は去って行きました。

またある懲役受刑者は花をととても大切に、毎朝のように花の手入れをしていました。私はそれを見て、花は好きですかと尋ねてみました。すると素晴らしい返事が返ってきました。「はい。花を見ていると心が洗われるので、とても好きです。」花に素直に感動する彼は、とても犯罪を犯す人には見えませんでした。私はこの仕事に対する愛と希望が自分の中でさらに強まるのを感じました。

天父がいかなる人をも片寄り見ることなく平等に愛して下さっていることを証します。そして、この仕事を通して、末日聖徒としての使命を少しでも果たせることを心から感謝しています。

私は自分でなければできない業を見いだして、よき模範を示し、彼らに救いと希望を与える刑務官になりたいと思います。

最後に、それが正しいことであるならば、祈りと信仰をもって努力する時に、必ず神様の導きがあることを証します。（かしわ・ゆういちろう 1953年生まれ、府中ワード部日曜学校教師）

# 読者の ひろば



(題字・イラスト／東京第4ワード部・渡辺隆史・23歳)

## 異郷の地で

バプテスマを受けてから9カ月目、大学に在学中1年間のカリフォルニアでの研修に参加した私は、異郷の地で信仰生活を送ることになりました。

現地に到着し、生活を始めてからすぐに様々な問題が持ち上がりました。教会の集会に出席しても内容が理解できず、その上知人も友人もいませんでした。また同じ屋根の下での共同生活で難しい人間関係というものを初めて経験しました。私は平安を失い、人と神様を愛することができない状態に陥ってしまいました。そして、もう神様から断ち切られてしまうのではないかと考えていたある日、一冊の本が日本から届きました。私はその本を読んで泣きました。声をあげて泣きました。そして読んでいるうちに何か体の中に力が満ちてくるのを感じました。表紙には「聖徒の道」とありました。

毎日曜の3時間だけの集会、それも内容をよく理解できない私にとって、「聖徒の道」は神権会であり、日曜学校であり、証会でありました。私は「聖徒の道」が届くとむさぼり読むようになっていました。それは私に勇気と真理の導きを与えてくれました。毎月欠かさず「聖徒の道」を送って

下さったその兄弟に心からお礼を申し上げたいと思います。(東京ステーキ部下北沢ワード部・野荻裕弘・23歳)

## 人の心をあたためる本

この教会に改宗するまで、私は違う宗教に入っていました。そこでも「聖徒の道」と同じような本が毎月発行されていました。その本を読んで素晴らしいと思い、またその教えに感動したこともありましたが、どうしても神様の存在を信じていくことができませんでした。

そのような時、今から2年前、この教会を知りました。そしていつの間にか、モルモンの教えを自分の生活の一部と考えるようになっていたのです。「聖徒の道」を読む時、また聖典を読む時、「これが真理だ」といつも感激するのです。また、教会幹部の方々のメッセージを読む時、胸の奥深く、大きな感動を覚えます。

「聖徒の道」を読んで涙を流した人、生きる目的をつかんだ人、くじけそうな心を支えてもらった人など、数多いと思います。本当に「聖徒の道」は、あたたかきを感じさせてくれる本だと思います。(高松ステーキ部高松ワード部・谷明美・15歳)

## 心の支え

**私**は福岡でバプテスマを受けましたが、その後2カ月もしない内に就職のため郷里の北海道に戻りました。勤務先は教会がある釧路から100キロほど北の所にある山の中の学校です。改宗したばかりの私に不安ながらも初めて教会に集った時、日本中どこへ行っても同じ信仰を持った素晴らしい兄弟・姉妹がおり、また同じプログラムが行なわれている様を見て、とても感激したものでした。そして、日曜日のわずかな時間しか教会に集えなかった私にとって、「聖徒の道」は、霊を鼓舞し、信仰を育む上で大きな支えとなりました。

現在は市内に住み、教会にもすぐに集えるようになりましたが、毎月の「聖徒の道」を待ち望む気持ちは変わりません。そこには、今私たちが何をしなければならぬのか予言者を通じて知らされています。やはり私にとっても「聖徒の道」は聖典と共に現世を歩むためのリアホナなのです。(釧路地方部千歳支部・森本美恵子・24歳)

## より身近なローカルページ

**毎**月「聖徒の道」を手にし、ローカルページを開く時、私はかつて同じ支部に集っていたある兄弟の証の記事を思い出します。私は、彼がその中で力強く証しているだけでなく、「私は元気で頑張っています。皆さんも頑張っていますか」と語りかけているようにも思えました。

何度か支部を移った私にとって、かつて同じ支部に集った人々が活躍している様子や、支部が発展しているニュースに触れるのは、大きな励みであり、勇気を与えてくれます。また、なつかしい気持ちで一杯になります。

「聖徒の道」は、予言者の言葉を知り、福音を学び、証を得る上で日々の生活の大きな糧となっていますが、特にローカルページは、「聖徒の道」をより身近なものにしてくれます。(広島ステーク部岩国支部・藤井正枝)



新刊

## 便利な「聖徒の道索引」

205×147mm 61頁 200円

1977年1月号から、1981年12月号まで5年分の「聖徒の道」の記事(子供の頁は除く)を、人名別と項目別の2通りに整理したもの。個人的な福音の学習はもちろん、レッスンや話の準備など、様々に用いることができる。

●ローカルページへのご投稿をお待ちしています。「聖徒の道」にまつわる出来事、ご感想をお寄せ下さい。また、各地域の教会の様子を伝える記事、話題などもどしどしお寄せ下さい。年齢・電話番号も忘れずに記入のこと。宛先：〒158 東京都世田谷区上用賀4-9-19/東京ディストリビューション・センター/「聖徒の道」編集室。12月号掲載分締切10月20日。

ローカルページに投稿を

## ヒンクレー副管長を招いて セミナー・インスティテュート特別大会開かれる

**去**る8月28日(土)、東京ステキ部センターで、ゴードン・B・ヒンクレー副管長を招き、セミナー・インスティテュート特別大会が開かれた。960名のセミナー・インスティテュートの生徒、ならびに教師が集い、熱心に教会幹部のメッセージに耳を傾けた。

教会教育部部長であり地区代表である鈴木正三長老の司会によって会は始められ、七十人第一定員会会員アドニー・Y・小松長老夫妻、ヒンクレー姉妹、新たに日本・韓国地域代表役員となった七十人第一定員会会員ウィリアム・R・ブラッドフォード長老がそれぞれ話し、最後にゴードン・B・ヒンクレー副管長が話した。ヒンクレー副管長は、集った青少年の平均年齢を18歳と仮定し、「もし今私が18歳ならば次の決意をするだろう」として、日本の将来を担

▼「みなさんは日本の将来そのものです」と若人に向けて語るブラッドフォード長老

う青少年に、次の4点について決意するよう提案した。「第1に、自国を愛し、敬い、よい国民となり、またよい教育を受けることによって教会に誉れをもたらす。第2に、伝道に出る決心をし、そのための備えをする。第3に、心から愛し、尊敬できる伴侶を捜し、神殿結婚をする。第4に、教会で求められる責任は何でもする。」

特に伝道については、伝道が決して犠牲ではなく、隣人への奉仕によって、自分がそこに注ぎ込んだ以上のものを得られるということ、また、たとえ犠牲であるとしても、十分にその価値があることを強調した。

約2時間にわたるこの特別大会には、終始主のみたまがあり、若人たちに将来に向けて多くのチャレンジと展望とを与えてくれた。

▼インスティテュートの生徒によるコーラス



# 未日聖徒イエスキリスト教会

## 東京神殿の神殿長会 新たに組織される

## アドニー・Y・小松長老の略歴

(七十人第一定員会会員)

8

月29日(日)、神殿推薦状を持つ約1,000人の教会員が東京ステーキ部センターに集い、ヒンクレー副管長の管理、司会のもと神殿集会が行なわれた。この集会では大管長会の指示により新たに組織された神殿長会の発表があり、指示がとられた。

新たに東京神殿長に七十人第一定員会会員のアドニー・Y・小松長老、第1副神殿長に、引き続きユークス・Y・井上兄弟、第2副神殿長に町田ステーキ部祝福師の渡辺雅兄弟が召された。今まで第2副神殿長と事務局長を兼任してきた松下泰洋兄弟は、事務局長の仕事に専任することになる。

また、これまで約2年間、神殿長の任にあったドウェイン・N・アンダーセン兄弟の解任は、健康上の理由によるものであるが、アメリカに帰国後、ブリガム・ヤング大学で再び教鞭を執ることになる。

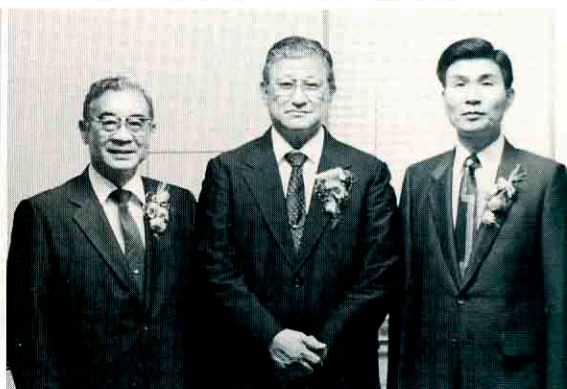
▼セミナー・インスティテュート特別大会で若人に向けて語るヒンクレー副管長

19

23年8月2日、ホノルル生まれ。59歳。1941年、17歳の時に改宗。第二次世界大戦終結と同時に進駐軍の一員として来日、両親の祖国の土を踏んだ。兵役終了後、ホノルルに戻り、実業界へ。教会においては、高等評議員、ステーキ部書記、監督などの責任を務めた後、1965年から3年間、日本に本部を置く北部極東伝道部の伝道部長を務めた。この任を終えて帰国してからは、高等評議員代理、地区代表などの責任を受け、1975年4月、白人以外からの初めての教会幹部(十二使徒評議員会補助)に召された。就任当時は、ハワイにある預金貸付協会の副頭取兼担当部長であった。

神殿長夫人(メイトロン)であるジュディ・ノブエ・小松姉妹とは、1950年にハワイ神殿で結婚、2男2女に恵まれている。小松姉妹は、初等協会会長、扶助協会中央管理会会員などの責任を果たしてきた。

▼新たに組織された神殿長会  
(左から井上兄弟・小松長老・渡辺兄弟)





表紙：ゴードン・B・ヒンクレー副管長  
「ヒンクレー長老を評する言葉に、良識の人、ユーモアを解する人、善良な人、優しい人といったものがありますが、どれもその人となり非常によくとらえています。」  
（ニール・A・マックスウェル長老）